講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間			
科目名	心理学	講義曜日	木	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	江﨑　浩明	実務経験	産業・学校・医療領域にて相談業務約16年間		

講義目標	
	一般目標
	日常生活でのさまざまな心の働きについて、科学的・学問的に理解を深める。
	到達目標
	後に学ぶ臨床心理学や精神医学の内容理解が促進されるよう、基礎心理学の用語や概念を理解する。また、心理学に対する誤解や偏見、擬似科学との違いについて考察する。

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	9	学習Ⅰ
2	心理学の種類と分類	10	学習Ⅱ
3	心理学の歴史	11	動機づけⅠ
4	感覚・知覚Ⅰ	12	動機づけⅡ
5	感覚・知覚Ⅱ　痛覚	13	感情
6	認知	14	知能
7	記憶と忘却Ⅰ	15	性格
8	記憶と忘却Ⅱ	16	

講義方法 教科書とPowerPointの併用
成績評価方法 数回の小テストと定期試験の総合評価。
参考書
予習復習のアドバイス 学んだ用語や概念は、クラスメートとの会話で積極的に使って覚えてください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023 年度	**時　期**	前期	**学　年**	1 年
学　科	作業療法科/理学療法科	**講義時間**	10:45～12:15		
科目名	倫理学	**講義曜日**	月	**講義回数**	15
		総時間数	30	**単位数**	2
講師名	徳田　幸雄	**実務経験**			
講義目標	**一般目標**				
	「人間とは何か？」「生とは？」「死とは？」といった人間観や死生観の根本的な問いを軸に、人間の尊厳性を再考するとともに自身の人生観をも見つめ直す。				
	到達目標				
	さまざまな倫理思想に触れることにより、現代に求められる倫理観を養う。自分自身の考えを論理的に表現できるようにする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	プラトンの思想（死の道）	9	仏教における人間観と死生観①
2	プラトンの思想（愛の道）	10	仏教における人間観と死生観②
3	ユダヤ教における人間観と死生観	11	神道における人間観と死生観
4	キリスト教における人間観と死生観①	12	近代人と死
5	キリスト教における人間観と死生観②	13	優生思想について
6	イスラームにおける人間観と死生観①（6信）	14	人工妊娠中絶問題
7	イスラームにおける人間観と死生観②（5行）	15	総括
8	インドの宗教における人間観と死生観	16	

講義方法　　なるべく一方的にならないように、通常の講義に加え、チェック・テストを課す。マインド・マップを基本に、視聴覚資料を用いる。
成績評価方法 講義時におこなうチェックテストおよび期末テストにより評価する。
教科書・参考書　　**教科書は特に指定しない。参考書を下記に示す** 小坂国継・岡部英男編著『倫理学概説』
予習復習のアドバイス 代ギリシャの哲学者（プラトン・アリストテレス）の著書を、少なくとも一冊は読んでみると 身の回りに起こる出来事やニュースも、倫理あるいは哲学の観点から見直すことをすすめたい。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	1
学　科	作業療法科/理学療法科	講義時間			
科目名	教育学	講義曜日	木	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	牛渡　亮	実務経験			
講義目標	**一般目標**				
	本授業では、教育学と教育社会学の知見を通じて、人間にとっての教育の意義を考えます。さらに、私たちが暮らす地域社会において、教育が果たす役割を検討します。それによって、私たちは誰もが学習者であり、教育者であることを明らかにします。				
	到達目標				
	本授業の到達目標は、なぜ自分が教育学を学ばなければならなかったのかを理解し、納得することです。そのためには、①教育の意義を理解すること、②現代社会に生じている教育的問題に関する自分の意見を他者に説明できるようになること、③専門職が地域社会で果たすべき役割を明確にすることが必要となります。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	教育とは何か （ガイダンス）	9	教育と階層 ①社会階層と再生産
2	素質と環境① 生得論と経験論	10	教育と階層 ②不良少年と階層
3	素質と環境② アファーマティブ・アクション	11	教育と貧困 ①絶対的貧困と相対的貧困
4	教育の場 ①家庭における教育	12	教育と貧困 ②現代の貧困と包摂
5	教育の場 ②学校における教育	13	専門職と教育 ①専門職の定義とその変容
6	教育の場 ③社会における教育	14	専門職と教育 ②チームとしての専門職
7	個性と平等 ①教育における平等	15	試験
8	個性と平等 ②青い目茶色い目	16	

講義方法 毎回配布する資料にもとづいて、板書中心の授業を行います。
成績評価方法 定期試験とコメントペーパーで評価します。
教科書・参考書 教科書は使用しませんが、授業内で参考書をご紹介します。
予習復習のアドバイス 授業の終わりに、毎回コメントペーパーを作成してもらいます。いただいた質問や意見に対 次の授業の冒頭で解説や補足を行います。積極的に質問を考えながら受講してください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	前期	**学　年**	1学年 クラス別々
学　科	理学療法科	**講義時間**	（1限～2限　3限～4限）		
科目名	社会福祉学	**講義曜日**	火.水	**講義回数**	15
		総時間数	30	**単位数**	2
講師名	千脇隆志・髙梨友也	**実務経験**	高齢者施設等に10年以上勤務 管理職、相談職等　社会福祉士		
講義目標	**一般目標**				
	科学的、倫理的思考力を育て、人間性を磨き自由で主体的な判断と行動を培うことを目指し、生命倫理、人の尊厳を幅広く理解することができる。				
	到達目標				
	・学生が国民の保健医療福祉の推進のために理学療法士が果たす役割を説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	講義オリエンテーション　（千脇） A（4月25日1限）　B（5月9日1限）	9	福祉サービスの供給と利用の過程（A千脇）（B髙梨） A（6月13日1限）　B（6月14日3限）
2	現代における社会問題と社会構造（千脇） A（4月25日2限）　B（5月9日2限）	10	福祉政策と関連施策（A千脇）（B髙梨） A（6月13日2限）　B（6月14日4限）
3	社会福祉の全体像　（髙梨） A（4月26日3限）　B（5月17日3限）	11	福祉政策の国際比較（A髙梨）（B千脇） A（6月21日3限）B（6月27日1限）
4	社会福祉を担う専門職　（髙梨） A（4月26日4限）　B（5月17日4限）	12	日本の社会福祉の歴史的展開（1（A髙梨）（B千脇） A（6月21日4限）B（6月27日2限）
5	社会福祉の根源　（A千脇）（B髙梨） A（5月23日1限）　B（5月24日3限）	13	日本の社会福祉の歴史的展開（2）（髙梨） A（6月28日3限）B（7月5日3限）
6	福祉政策の基本的な視点（A千脇）（B髙梨） A（5月23日2限）　B（5月24日4限）	14	欧米の社会福祉の歴史的展開（1）（髙梨） A（6月28日4限）B（7月5日4限）
7	福祉政策の構成要素と過程（A髙梨）（B千脇） A（5月31日3限）　B（5月30日1限）	15	欧米の社会福祉の歴史的展開（2）（千脇） A（9月5日2限）B（9月5日1限）
8	福祉政策のニーズと資源　（A髙梨）（B千脇） A（5月31日4限）　B（5月30日2限）	16	

講義方法
基本方法として、講義、演習。　必要時ディスカッション、小レポート　iPad持参
成績評価方法
期末試験70％、小レポート20％。参加態度10％
参考書
社会福祉学習双書　社会福祉の原理と政策
予習復習のアドバイス
事前に教科書の行う単元を読むように心がけてください。
講義中は、適宜ポイントを示します。試験のためには、講義中のポイントを整理しておいてくだ

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期		
学　科	理学療法科	学　年	1学年		
科目名	情報処理学	講義時間	別途指定		
		講義曜日	別途指定	講義回数	15
講師名	岩渕　正則	総時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	IPADを利用し、日常業務の問題解決の手法を取得する。 IPADの基本的な操作を通じ情報リテラシー能力を高める。				
	到達目標				
	IPADの基本ソフトウェアである、IOSの構成を理解し、適切に使用することができる。 ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーシンソフト、それぞれのアプリケーションソフトウェアの基本操作を理解しながら利用すろことができる。インターネットの使い方を理解し、ネチケットなどのマナーを守り、著作権などの知的財産権の仕組みを理解する。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		IOSの操作法と各種機能を理解する。	11		グラフの作成
2		文字の入力【ローマ字入力、カタカナ入力、漢字入力、記号入力）	12		条件判定と順位付け
3		文章の入力、ファイルの保存と読み込み。	13		プレゼンテーションソフト（PowerPoint)の基本操作
4		ビジネス文書の入力	14		プレゼンテーションの作成
5		表の作成	15		プレゼンテーションの発表
6		画像入力	16		
7		表計算（Excel)の基本操作	17		
8		関数を使った計算式①	18		
9		関数を使った計算式②	19		
10		スタイルの編集と相対参照と絶対参照	20		

講義方法
IPADを使って実習形式で行う。
講義で使用する機器・教材
履修上の注意事項 実習にて、毎回提出物が発生しますので、確実に提出してください。

成績評価方法
毎回の提出物の提出状況と提出内容、および15回めのプレゼンテーション発表状況から評価する。

教科書
30時間でマスター「Office2019」 実教出版
参考書

予習復習のアドバイス
教科書を事前に読んでおくこと。

記載日　令和 5年 4月 21日

東北保健医療専門学校

講義要項（シラバス）

年　度	2023 年度	時　期	前期	学　年	1年
学　科	作業療法科/理学療法科	講義時間			
科目名	工学	講義曜日	金	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	岩淵　正則	実務経験			
講義目標	**一般目標**				
	力学の基礎を通じて科学的・論理的思考力を身に付け、理論から実際の物作りへの応用力を養うことを目標とする。				
	到達目標				
	運動力学の基礎となる力学の基礎を学び、続いて制御の仕組みや機械の機構による運動の伝達部分の基礎を理解する。また、アクチュエータによって操作される運動系を理解し、現在の介護ロボットの仕組みについて理解することを到達目標とする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	物理量とその表し方	9	運動エネルギーと仕事
2	物理学で使うグラフと関数	10	電気工学の基礎
3	いろいろな運動	11	機械工学の基礎
4	さまざまな力	12	制御工学の基礎
5	力の合成と分解	13	情報工学の基礎
6	運動方程式（物体系）	14	福祉系ロボットの活用例
7	運動方程式（摩擦系）	15	期末試験
8	力のモーメント	16	

講義方法 板書中心で進めるが、随時演習問題や関連資料のプリントを配布する。
成績評価方法 定期試験と提出物、出席率で評価する。
教科書・参考書 PT・OTゼロからの物理学　羊土社
予習復習のアドバイス 高校の物理Ⅰが基礎となる。最初からの積み重ねが大事であるので、欠席のないようにお願いし

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	90分		
科目名	フレッシュマンセミナー	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	左右田博、小宮山与一、理学療法科全教員	実務経験			

講義目標	
	一般目標
	理学療法学を学修するにあたり、その概要を知るとともに、学習者としての姿勢を学び、同じ目標をもった仲間や教員など他者と協働して目標を達成する姿勢を培うことを取得する。
	到達目標
	①理学療法士に必要な基本的能力を達成目標として熟知し、参加することができる。 ②自主的に課題を発見し、自己学習によって解決に向けて実施することができる。 ③他者と協力して、課題の解決に向けて、対処方法を見出すことができる。

回数	講義内容	回数	講義内容
1	**学科オリエンテーション** 医療学生としての心得	11	
2	**理学療法士の理解**	12	
3	**基礎学力試験①**	13	
4	**基礎学力・表現力向上に向けて**	14	
5	**学内設備、医療機器の説明**	15	
6	**志望動機の整理①（自己紹介など）**	16	
7	**志望動機の整理②（自己紹介など）**	17	
8	**基礎学力試験②**	18	
9		19	
10		20	

講義方法 講義、体験、面談、発表
成績評価方法 出席と提出物100％
参考書 プリント配布
予習復習のアドバイス 意欲的に参加しましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	キャリアデザイン	講義曜日	時間割参照	講義回数	7.5
		総時間数	15	単位数	1
講師名	和田　寿子、小宮山　与一、左右田　博、理学療法科教員	実務経験	小宮山：医療機関に理学療法士として9年勤務 左右田：医療機関に理学療法士として15年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	「どんな仕事をしたいか」「どのような働き方や家庭生活を送りたいか」といった人生の理想を描き、その中で理学療法士という職業選択について、その実現に向けた計画を設計する。				
	到達目標				
	①自身の過去・現在を振り返り、自身のパーソナリティを理解する。伸ばす点、改善点の確認。 ②社会で求められている能力や態度を学び、自律的なキャリア形成に対する意識醸成をはかる。 ③今後の学生生活をどう送るか、理学療法士として在りたい姿を考え、キャリアビジョンを描く。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	キャリアとは何か、なぜキャリアを考える必要があるのかを伝え、自身のキャリアを考えるために、ジョブ・カードに性格、価値観、強みを書き出し、自己理解を深	11	
2	社会で求められる力とは何か、社会で求められるコミュニケーションをワークを通して確認し、社会人基礎力のチェックを行う。後半自己ＰＲ作成を行う。	12	
3	卒業後の理学療法士像を考える。なぜ理学療法士を目指そうと思ったのか、魅力は何か、どのような理学療法士になりたいのかを確認する。	13	
4	理学療法士のキャリア形成について(体験談①)	14	
5	理学療法士のキャリア形成について(体験談②)	15	
6	理学療法士のキャリア形成について(体験談③)	16	
7	理学療法士についての理解	17	
8	自身のPT像の具体化	18	
9		19	
10		20	

講義方法 1～3回目までは和田担当、4回目以降は、小宮山、左右田、理学療法科教員担当
成績評価方法 出席と提出物により評価する
参考書 ワーク資料等
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度（令和5年度）	時　期	後期		
学　科	理学療法科	学　年	1学年		
科目名	スポーツ学Ⅰ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	15
講師名	川口　鉄二	総時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標 生涯にわたって心身ともに健康に生活していくために必要な要素としてのスポーツの役割について理解する。				
	到達目標 スポーツ実践に伴う個別問題事例の原因と対策を知ることで、スポーツ障害に対する対応と理解を深める。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		オリエンテーション 講義概要と単位取得方法	11		体力のバタフライエフェクト 健康体力とスポーツ体力の区別
2		スポーツ現場の諸問題 現状認識の実態調査	12		スポーツ障害とその予防 怪我の発生原因とその対処法
3		スポーツ科学はどこに行く スポーツ科学の特性と問題性	13		スポーツが上手くなるとは 動きの形成位相を知る
4		日本のお家芸を支えた偉人 加納治五郎と金子明友	14		海外のスポーツ 生涯スポーツの捉え方
5		マイネルが託したスポーツ運動学の発展 日本が継承できた歴史的背景	15		テスト・解説
6		ラジオ体操は何故楽しくないのか 国・文科省に利用される体育	16		
7		集団行動の功罪 新しい集団行動の捉え方	17		
8		スポーツ用語の混乱 保健と体育の未分化がもたらす問題	18		
9		人間の目に映る二つの世界 正しさの基準を確認する	19		
10		部分と全体の動き（ゲシュタルト 人間の運動と身体の運動	20		

講義方法

対面によるプレゼンテーション

講義で使用する機器・教材

履修上の注意事項

成績評価方法

各回のレポート内容

教科書

参考書

コツとカンの運動学　大修館

予習復習のアドバイス

自分の運動経験例を思い浮かべながら考えてください。

記載日　令和　年　月　日

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期		
学　科	理学療法科	学　年	1学年		
科目名	人間関係論	講義時間	別途		
		講義曜日	別途	講義回数	8
講師名	江﨑　浩明	総時間数	15	単位数	1
講義目標	一般目標				
	人間関係に影響を与える要因について学び、日常生活に活かす。				
	到達目標				
	①人間関係構築スキルの基礎要件である自己について理解を深める。 ②他者を理解・判断する際に用いられる内的基準の個人差について理解を深める。 ②人と人とが惹かれる・別れる理由について理解を深める。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		人間関係論における、心理学的・社会学的アプローチの違い	11		
2		自己Ⅰ 自己理解、1対1、1対多	12		
3		自己Ⅱ 自己呈示、自己開示、自己受容	13		
4		対人認知Ⅰ 暗黙の人格観、ステレオタイプ	14		
5		対人認知Ⅱ ハロー効果、中心特性語	15		
6		対人魅力と別離Ⅰ 類似説と相補説、結婚と離婚	16		
7		対人魅力と別離Ⅱ 離婚とその影響、再婚	17		
8		試験	18		
9			19		
10			20		

講義方法

プリント（PDF共有）とパワーポイントを併用して進める

前後左右のクラスメートとの意見交換

講義で使用する機器・教材

PC、iPad

履修上の注意事項

講義で使用するPDFファイルの管理

成績評価方法

定期試験

教科書

なし（配布されるPDFファイル）

参考書

予習復習のアドバイス

学んだ用語や概念は、クラスメートとの会話で積極的に使って覚えましょう。

”覚える”ことも必要ですが、”考える”ことも重要視してください。

記載日　令和 5年　6月22日

東北保健医療専門学校

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期		
学　科	理学療法科	学　年	1学年		
科目名	コミュニケーション論Ⅰ	講義時間	別途		
		講義曜日	別途	講義回数	7.5
講師名	江﨑　浩明	総時間数	15	単位数	1
講義目標	一般目標				
	良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション基礎能力を養う。				
	到達目標				
	①コミュニケーションとは何かを理解する。 ②コミュニケーションを阻害する要因について理解する。 ③コミュニケーション能力の基礎要件である自己理解・自己把握を促進する。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		対人援助職のリアリティショックやバーンアウト、感情労働、心的報酬	11		
2		言語と非言語のコミュニケーション	12		
3		メタ認知能力、セルフモニタリング	13		
4		社会人基礎力 時間・健康・感情管理	14		
5		ストレスとストレスマネージメントⅠ（ストレスとストレッサー、べき思考）	15		
6		ストレスとストレスマネージメントⅡ（コーピング・リフレーミング）	16		
7		怒りと攻撃行動・怒りと悲しみ	17		
8		試験	18		
9			19		
10			20		

講義方法

教科書とパワーポイント、配布プリント（PDFファイル）を併用して進める

前後左右のクラスメートとの意見交換

講義で使用する機器・教材

PC, iPad

履修上の注意事項

配布されるPDFファイルの保管

成績評価方法

定期試験

教科書

PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド第2版　医学書院

参考書

予習復習のアドバイス

学んだ用語や概念は、クラスメートとの会話で積極的に使って覚えましょう。

”覚える”ことも必要ですが、”考える”ことも重要視してください。

記載日　令和 5年 6 月22日

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	変則		
科目名	医学英語	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	三浦　信明、小宮山　与一	実務経験	三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤		
講義目標	**一般目標**				
	臨床現場で使用される医療に関する英語（英単語）、略語を理解して、カルテ等の資料を読み取ることができ、対象者の情報を記すことができる。				
	到達目標				
	１．臨床で用いられる英単語や略語を理解し、用いることができる。 ２．医学英語で用いられる接頭語や解剖・運動学用語を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法に関する医学用語	11	
2	理学療法に関する医学用語	12	
3	理学療法に関する医学用語	13	
4	人体各部の医学英語名称　骨・関節（１）	14	
5	人体各部の医学英語名称　骨・関節（2）	15	
6	人体各部の医学英語名称　筋系（１）	16	
7	人体各部の医学英語名称　筋系（２）	17	
8	人体各部の医学英語名称　筋系（3）	18	
9		19	
10		20	

講義方法 プリント及びスライドでの講義。適宜課題を提示します。
成績評価方法 期末試験100%
教科書・参考書 標準理学療法学作業療法学「解剖学」医学書院、第4版カラースケッチ解剖学　廣川書店、コ・メディカル版　ステッドマン医学辞典（英和・和英）
予習復習のアドバイス 各自で辞書、教科書等を用い、授業で扱う用語について調べてください。 他科目での理解・復習が必要になりますので事前に確認しておくこと。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	15：00-16：30		
科目名	解剖学Ⅰ	講義曜日	木	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	狩野　充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	**一般目標**				
	学生がすべての臨床科目の基礎になる解剖学の中で内臓系と運動器系（骨、関節、筋）についての基本的な解剖学的構造、名称、機能について理解できるこ				
	到達目標				
	主な内臓の構造と全身の骨の形態、関節、筋の構造や働き等について正しく解剖学的に理解ができること（重要な注意）授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いです				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	体の区分け方向用語、名称 （第1章、解剖学総論Ⅰ、Ⅱ）	9	関節各論（３．下肢、上肢） （第3章P123-、137-）
2	骨学、関節総論 （第２章、骨格総論、関節靭帯総論）	10	関節各論（４.上肢） （第3章P137-）
3	骨学各論（1.上肢）（第２章P68-） 細胞組織系（課題の内容）	11	内臓系（１.消化器） （第7章P370-）
4	骨学各論（2.体幹） （第２章P58-）	12	内臓系（消化器②、2.呼吸器） （第7章P370-、P360-）
5	骨学各論（３.頭頚部） （第２章P46-）	13	内臓系（呼吸器②、3.泌尿器） （第7章P360-、P384-）
6	骨学各論（４.下肢） （第２章P78-）	14	内臓系（4.男性生殖器） （第7章P384-）
7	骨学各論（5.下肢）、関節１（頭部） （第２章P46-、第3章P113.114）	15	内臓系（男性生殖器②5.女性生殖器） （第7章P384-）
8	関節各論（２.体幹、下肢） （第3章P114-、137-）	16	

講義方法

パワーポイントを使用した講義中心であるが、適宜課題や問題演習等も行う予定である

(特に課題は真剣に取り組んで下さい。内容も重要なものです)

講義で使用する機器・教材

パワーポイント、配布印刷物、 Terms使用予定

履修上の注意事項

授業中の私語、飲食および携帯電話の使用は禁止である　（専門科目の心得、（あくまでも1つのヒントです））

１、該当項目の教科書を読んでくる　２、授業で理解に努める（実際にここで１００％は無理です）　３、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する　４、問題演習等で、きちんと出力できるようにする（これも1回ではなかなかできません）

成績評価方法

期末試験（100％）＋（課題等加算予定あり）にて成績を評価する

授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される

教科書

PTOT標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学（第5版）

参考書　アトラスとテキスト人体解剖（原書　第6版）（南江堂）

日本人人体解剖学（第２０版）

予習復習のアドバイス　解剖学の中でも特に運動器系では複雑な解剖学的名称がたくさん出てく
ので、難しい名称に惑わされずきちんと予習、復習してうまく整理することがポイントです。臨
実習でも国試でも卒業後もずっと関わる最重要科目です。試験前の一夜漬けだけでは対応できま

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	後期	**学　年**	1
学　科	理学療法科	**講義時間**	時間割参照		
科目名	解剖学Ⅱ	**講義曜日**	時間割参照	**講義回数**	15
		総時間数	30	**単位数**	2
講師名	高田　拓明	**実務経験**			
講義目標	**一般目標**				
	人体における細胞・組織・器官（脈管・神経・感覚器）の構造と機能について理解できる。				
	到達目標				
	講義と並行して行われる体表解剖実習などとともに、基礎医学、臨床理学療法学を学習するために必要な形態学的な基礎を作ることを目標とする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	神経系総論	9	感覚器系2
2	中枢神経系1	10	感覚器系3
3	中枢神経系2	11	脈管系（心臓1）
4	中枢神経系3	12	脈管系（心臓2）
5	末梢神経系1	13	脈管系（動脈系）
6	末梢神経系2	14	脈管系（静脈系）
7	末梢神経系3	15	脈管（リンパ系）
8	感覚器系1	16	

講義方法
成績評価方法 小テスト及び定期試験により判定する。
参考書 PTOT標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学（第５版）
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	変則		
科目名	体表解剖学	講義曜日	変則	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	◎小宮山与一、籠倉暁、三浦信明	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務）。三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤		
講義目標	**一般目標**				
	骨格筋の用語及び構造を理解する。構造理解について、3次元的に理解するために体表から筋や骨を触察し描写する技術や断層解剖の理解を経験する。				
	到達目標				
	①骨格筋の名称、形態及び位置関係を理解する。 ②骨格筋と骨格を用紙に描写できる。 ③骨格筋と骨を対象学生の体表から触り分け、体表上に描写し、構造を立体的にイメージすることができる。 ④断層解剖を理解することで骨格筋の重なりや位置関係をイメージすることができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	体表解剖の学び方と体験	16	実習：下腿前面の触診
2	体表解剖の学び方と体験	17	実習：下腿後面の触診
3	頭頸部	18	実習：大腿前面・膝の触診
4	肩甲帯	19	実習：大腿後面・内側面の触診
5	前胸部	20	実習：肩甲骨・頚部の触診
6	上腕	21	実習：上肢帯前面
7	前腕・手指	22	実習：上肢帯後面
8	下部体幹	23	実習：まとめ

9	大腿前面	24	
10	大腿後面・殿部	25	
11	下腿前面・足部	26	
12	下腿後面・足部	27	
13	断層解剖の理解とエコーの活用	28	
14	断層解剖の理解とエコーの活用	29	
15	断層解剖の理解とエコーの活用	30	

講義方法

・教室での講義と実習室での実習の形式で行う。
・実習の服装として、実習着もしくは肌を露出できる半袖とするが、授業前に指示をする。
・実習の準備物として、各自バスタオルを持参する。

成績評価方法

「期末試験」100%

教科書

改訂版ボディ・ナビゲーション　医道の日本社/第4版カラースケッチ解剖学　廣川書店

予習復習のアドバイス

・解剖学、運動学と関連させて学習すること。
・覚えるまで繰り返し学習することが重要です。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	9：00-10：30		
科目名	生理学Ⅰ	講義曜日	水	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	狩野　充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	**一般目標**				
	学生がすべての臨床科目の基礎になる生理学において人体の解剖学的構造と関連した生理学的機能について理解できるようにする				
	到達目標				
	からだの基本的な生理学的機能全般について理解することができるようにする　（重要な注意）授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いです（問題演習はIpad使用				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	生理学の導入、細胞の働き （１章P1-）	9	循環の生理学（３、血圧、血管機能） （15章P262-282）
2	骨の生理学 （10章P163-）	10	循環の生理学（４、血圧、血管機能） （15章P262-282）
3	筋の生理学（１） （4章P37-）	11	体温調節機能 （19章P331-）
4	筋の生理学（２） （4章P37-）	12	咀嚼、嚥下、消化、吸収（１） （13章P213-）
5	血液の生理学 （14章P235-）	13	咀嚼、嚥下、消化、吸収（２） (13章P213-)
6	体液の生理学 （18章P321-）	14	排尿、排泄 （17章P303-）
7	循環の生理学（１、心臓機能） （15章P249-261）	15	免疫の仕組みと働き （14章P244-）
8	循環の生理学（２、心臓機能） （15章P249-261）	16	

講義方法 パワーポイントを使用した講義中心であるが、各項目ごとに適宜問題演習を行う 解剖学同様、課題を出す予定です
講義で使用する機器・教材 パワーポイント、配布印刷物、 Terms使用予定
履修上の注意事項 授業中の私語、飲食および携帯電話の使用は禁止である　（専門科目の心得、（あくまでも1つのヒントです））１、該当項目の教科書を読んでくる　２、授業で理解に努める（実際にここで１００％は無理です）　３、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する　４、問題演習等で、きちんと出力できるようにする（これも1回ではなかなかできません）
成績評価方法 期末試験（100%）＋（課題等加算予定あり）にて成績を評価する 授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される
教科書 シンプル生理学改訂第8版（南江堂）
参考書 やさしい生理学改訂第6版（南江堂）
予習復習のアドバイス ・解剖学的構造、生理学的機能は密接に関連する場合が多いので両者は関連づけて学習するようにしまし ・基礎科目は試験前の一夜漬けではなく少しずつでも日々の予習、復習をしっかり行ないましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	10：45-12：15		
科目名	生理学Ⅱ	講義曜日	金	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	狩野　充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	**一般目標**				
	前期に引き続いて臨床科目の基礎になる生理学において人体の解剖学的構造と関連した生理学的機能について理解できるようにする				
	到達目標				
	からだの基本的な生理学的機能全般について理解することができるようにする（重要な注意）授業の配布資料等がかなりの量になりますので、早いうちに各自で整理するファイルを用意した方が良いです（問題演習はIpad使用）				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	睡眠、感覚の生理学（１） （5章Ｐ５９－、8章P125-128）	9	内分泌系（１） （9章P139-）
2	感覚の生理学（２） （5章P59-）	10	内分泌系（２） （9章P139-）
3	感覚の生理学（３）栄養と代謝（１） （5章Ｐ５９－、11章P201-）	11	神経系の機能（１） （４章Ｐ５２－）
4	栄養と代謝（２） （11章P201-）	12	神経系の機能（２） （６章P91-）
5	呼吸生理 （15章P281-）	13	神経系の機能（３） （8章P121-）
6	生殖機能 （10章P184-）	14	神経系の機能（４） （8章P121-）
7	神経の基本機能（1） （2章P13-）	15	神経系の機能（５） （７章P99-）
8	神経の基本機能（2） （2章P13-）	16	

講義方法 パワーポイントを使用した講義中心であるが、各項目ごとに適宜問題演習を行う 解剖学同様、課題を出す予定です
講義で使用する機器・教材 パワーポイント、配布印刷物、 Terms使用予定
履修上の注意事項 授業中の私語、飲食およびスマホの使用は禁止である　（専門科目の心得、（あくまでも1つのヒントです））１、該当項目の教科書を読んでくる　２、授業で理解に努める（実際にここで１００％は無理です）　３、授業後に自分でもう1回重要事項を整理する　４、問題演習等で、きちんと出力できるようにする（これも1回ではなかなかできません）
成績評価方法 期末試験（100％）＋（課題等加算予定あり）にて成績を評価する 授業態度、課題提出状況等も総合的に考慮される
教科書 シンプル生理学改訂第8版（南江堂）
参考書 やさしい生理学改訂第6版（南江堂）
予習復習のアドバイス ・解剖学的構造と生理学的機能は密接に関連する場合が多いので両者は関連づけて学習するようにしまし ・基礎科目は試験前の一夜漬けではなく少しずつでも日々の予習、復習をしっかり行ないましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	変則		
科目名	運動学Ⅰ	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	和地辰紀、上村太一	実務経験	和地：理学療法士として一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション5		
講義目標	**一般目標**				
	運動や障害を評価するために必要な捉え方・考え方の基礎となる運動学的知識を習得する.				
	到達目標				
	1．運動学的用語を理解し，正しく用いることができる. 2．身体の基本的な構造や分類を理解し，正しく用いることができる. 3．神経筋骨格系の構造や分類を理解し，正しく用いることができる. 4．力学原理に基づく運動の記述と解釈ができる.				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動学の定義・表現の基本	9	脊柱
2	神経筋骨格系の機能（骨・関節）	10	脊柱
3	神経筋骨格系の機能（筋）	11	呼吸
4	神経筋骨格系の機能（神経）	12	呼吸
5	神経筋骨格系の機能（腱・靭帯）	13	顔面
6	運動の中枢神経機構、姿勢	14	運動発達
7	運動学習、生体力学	15	運動発達
8	脊柱	16	

講義方法 　教科書，スライド、配付資料を使用します。また、人体模型・標本や実際の身体運動と照らし合わせながら講義を行います。
成績評価方法 担当教員毎に筆記試験を実施し、それらの結果を合算し総合評定を行います（各教員持ち点50
参考書 エッセンシャル・キネオロジー原書第3版（電子書籍付）南江堂
予習復習のアドバイス わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。 常に疑問を持ち臨むこと。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	変則		
科目名	運動学Ⅱ	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一、籠倉暁	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法		
講義目標	**一般目標**				
	運動や障害を評価するために必要な捉え方・考え方の基礎となる運動学的知識を習得する.				
	到達目標				
	1．運動学的用語を理解し，正しく用いることができる. 2．身体の基本的な構造や分類を理解し，正しく用いることができる. 3．神経筋骨格系の構造や分類を理解し，正しく用いることができる. 4．力学原理に基づく運動の記述と解釈ができる.				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	股関節	9	肩関節
2	股関節	10	肘関節、手部
3	膝関節	11	肘関節、手部
4	膝関節	12	肘関節、手部
5	足関節	13	歩行
6	足関節	14	歩行
7	肩関節	15	異常歩行
8	肩関節	16	

講義方法 教科書，スライド、配付資料を使用します。また、人体模型・標本や実際の身体運動と照らし合わせながら講義を行います。使用する機器・機材は教科書、ホワイトボード、スライド、人体模型・標本を使用。
成績評価方法 期末試験100％
教科書 エッセンシャル・キネシオロジー　原書第3版　南江堂
予習復習のアドバイス わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。常に疑問を持ち臨むこと。 繰り返しの学習が必要です。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	通年	**学　年**	1
学　科	理学療法科	**講義時間**	９０分		
科目名	人間発達学	**講義曜日**	水	**講義回数**	１５回
		総時間数	30	**単位数**	2
講師名	石島孝樹	**実務経験**	主に急性期病院で16年の臨床経験がある。		
講義目標	**一般目標** 胎生期から老年期まで各ライフステージにて生涯どのような成熟をしていくのか発達過程を理解し、その中で影響要因と個別性があることを知る。患者ひとり一人の背景や特性を理解した治療を行えるための基本的な発達段階とその特性を理解する。 **到達目標** 1　人間の発達の特徴を説明できる。 2　人間の発達に影響を及ぼす主な要因を説明できる。 3　障害や加齢に伴う行動行為課題が生じた時に発達過程を基に対応を考えることができる。 4　発達評価を理解し、過去の国家試験問題を解くことができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	人間発達とは	9	発達検査【検査】
	人間発達理論　発達概念		遠城寺式・デンバー等
2	胎生期における発達	10	小児期における発達
	受精　胎児期、新生児期の発達過程		学童期の特徴
3	乳幼児期における発達	11	青年期における発達
	運動発達総論		青年期の特徴
4	乳幼児期における発達	12	人間発達における性差
	運動発達概論：背臥位　腹臥位		発達過程・ライフイベントによる性差
5	乳幼児期における発達	13	成人期における発達
	運動発達概論:座位　立位　歩行		身体機能・生理機能・心理・社会的変化
6	乳幼児期における発達	14	老年期における発達
	精神発達　言語発達		心理・生理機能と社会的変化
7	姿勢反射理論	15	姿勢反射理論　運動発達検査【検査】
	姿勢反射検査の意義と目的		姿勢反射実技　運動発達検査実技
8	運動発達検査【検査】	16	
	運動発達検査の意義と目的と種類		

講義方法 座学（授業ごとに教科書をもとに作成した資料を配布します）*プロジェクターを使用
成績評価方法 １.筆記試験80%　２.課題・出席・授業態度20%
参考書 小児理学療法学テキスト　理学療法評価学
予習復習のアドバイス 授業毎に確認テストを実施する。学習理解度を確認し、自己学習に役立てること。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年		
学　科	理学療法科	学　年	1学年		
科目名	一般臨床医学	講義時間			
		講義曜日	金	講義回数	15
講師名	大沼英子			単位数	2
講義目標	**一般目標** 各種疾病とその病因、病態生理について医療人として最低限の知識を習得し、自らが専門とする分野の知識・技術を習得するための基礎を築く				
	到達目標 ①各種疾病やその病因、病態生理に関心を持ち、一層の向学心を持つことができる ②各種疾病や病態生理、診断、治療の最低限の知識を想起できるようになる ③知識のみならず倫理観を持ち、病態に偏らない客観的で全人的な医療を行う姿勢を持つ				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		代謝異常・退行性病変①	11		免疫
2		代謝異常・退行性病変②	12		免疫と感染性
3		代謝異常と疾患	13		腫瘍①
4		循環と循環障害	14		腫瘍②
5		循環障害と疾患①	15		まとめ
6		循環障害と疾患②			
7		進行性病変と疾患①			
8		進行性病変と疾患②			
9		炎症			
10		炎症と疾患			

講義方法

パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた講義形式

講義で使用する機器・教材

PC、スクリーン、配布プリント、適宜Ipadを使用する。

履修上の注意事項

授業形態の変更等により講義の内容や進め方の変更が生じる場合があります。

学習の補足のために、できるだけ振り返りと復習を心掛けて行ってください。

成績評価方法

定期試験およびレポート、課題などで総合的に評価する

教科書

なるほどなっとく病理学(南山堂)

参考書

必要に応じ適宜説明する

予習復習のアドバイス

配布プリント、スライドで十分でない場合は、各自参考書等で補足し疾患の症状や経過について理解を
るようにしてほしい。

記載日　令和 5年 6月 22日

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	臨床心理学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	水野　彩子	実務経験			

講義目標	**一般目標**
	臨床心理学の知識や技法，対人関係の視点を学び，理学療法士の実践に生かしていけるようになることを目標としている。
	到達目標
	臨床心理学における考え方や技法の基礎を身に付ける。心理療法や心理査定法だけでなく，臨床心理学に関連した周辺の知識についても，理解を深める。更に，実際にある臨床心理学的概念や事象について理解を深め，自分なりの関わり方をイメージできるようになることを，到達目標としている。

回数	講義内容	回数	講義内容
1	イントロダクション	9	精神障害の基礎知識3
2	臨床心理学と社会	10	行動療法 認知行動療法
3	心理面接の基本	11	様々な心理療法
4	来談者中心療法	12	心理査定法1
5	精神分析と力動論1	13	心理査定法2
6	精神分析と力動論2	14	心理査定法3
7	精神障害の基礎知識1	15	試験と解説
8	精神障害の基礎知識2	16	

講義方法
講義、演習
成績評価方法
テスト（70%）、課題（15%）、出席と授業態度（15%）
参考書
標準理学療法学・作業療法学　精神医学（医学書院）、医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー。授業では，主に授業中に提示するスライド資料を基に進めていく。教科書は，参考として使用することがある。
予習復習のアドバイス
心理的な問題や困難な状況は，日常的に誰でも体験しうるものが多い。そのため，単なる記号的な知識や，価値の定まった概念として学ぶのではなく，学んだことは実際の生活場面においてどのように表れているか，活用されるかを意識する視点を持ってもらいたい。加えて，将来，理学療法士として活動する際，学んだこととどのような形で関わることになるか，どう応用できるであ

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	前期	**学　年**	1
学　科	理学療法科	**講義時間**			
科目名	栄養学Ⅰ	**講義曜日**	木	**講義回数**	8
		総時間数	15	**単位数**	1
講師名	笹山由貴	**実務経験**	有		
講義目標	**一般目標**				
	栄養学の基礎を理解し、正しい知識を身に付ける。				
	到達目標				
	基本的な栄養、代謝について説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	人間栄養学、栄養素の種類とはたらき①（糖質）	11	
2	栄養素の種類とはたらき②（脂質・タンパク質）	12	
3	栄養素の種類とはたらき③（ビタミン、ミネラル、食物繊維）	13	
4	食物の消化と栄養素の吸収・代謝①	14	
5	食物の消化と栄養素の吸収・代謝②	15	
6	エネルギー代謝　食事と食品	16	
7	テスト解説・健康づくりと健康	17	
8	期末テスト	18	
9		19	
10		20	

講義方法 パワーポイントと教科書で進める。
成績評価方法 筆記テスト100％
参考書 専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能
予習復習のアドバイス 予習　教科書に目を通しておくこと 復習　ノートや教科書を復習し知識を整理すること

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	1学年
学　科	作業療法科/理学療法科	講義時間			
科目名	救急医学/救命救急医学	講義曜日		講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	久志本、古川、吉崎伸一、上遠野	実務経験	医師/作業療法士		
講義目標	**一般目標**				
	緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学ぶ。心肺蘇生・応急処置について学ぶ。災害時おけるリハビリテーション職種の役割を理解する				
	到達目標				
	①救急医療体制について説明できる　②患者の急変時での基礎的な観察・処置を理解する。③心肺蘇生・応急処置の方法について説明できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	救急医療体制について	11	
2	ショックの病態と身体所見、ショックの分類と応急処置	12	
3	脳死と臓器提供	13	
4	アドバンスケアプランニング（ACPについて）	14	
5	アドバンスケアプランニング（ACPについて）	15	
6	心肺蘇生・AED	16	
7	大規模災害時における活動内容の概要	17	
8	大規模災害時における活動内容の概要	18	
9		19	
10		20	

講義方法　パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面講義形式 BLSについての実技演習　　災害時の活動内容の概要を知るために、多職種によるチームビルディング演習等
成績評価方法 小テスト、レポート等で総合評定する
教科書・参考書 教科書は特に指定しない
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年		
学　科	理学療法科	学　年	1学年		
科目名	加齢・予防医学	講義時間	別途指定		
		講義曜日	別途	講義回数	15
講師名	大沼　英子　楠山　譲二	総時間数	30	単位数	2
講義目標	**一般目標** 加齢に伴う心身の変化と老年症候群、老年期障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症 治療を学ぶ。また、疾病予防や健康管理のあり方について学ぶ。				
	到達目標 ①加齢に伴う心身の変化と老年症候群について理解する ②老年期障害の一般的疾患について説明できる ③予防の概念について理解する ④主な疾病の予防について説明できる				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		老化と加齢変化①	11		感染症の予防
2		老化と加齢変化②	12		生活習慣病の予防①
3		高齢者の疾患　概論	13		生活習慣病の予防②
4		高齢者の疾患①	14		子ども・女性・高齢者・社会と健康
5		高齢者の疾患②	15		試験
6		高齢者の疾患③	16		
7		高齢者の疾患④	17		
8		予防医学とは	18		
9		疾病リスクと予防医学	19		
10		健康管理と健康増進	20		

講義方法

ホワイトボード、パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面講義形式

講義で使用する機器・教材

ホワイトボード、PC、スクリーン、配布プリント、適宜Ipadを使用する。

履修上の注意事項

予習として各講義前に該当する内容を参考書で読むようにしてほしい。

また、講義内容に関して内容の補足のために復習を心がけてほしい。

成績評価方法

試験および平常点（出席、小テスト、レポート等）で総合的に評価を行う

教科書

参考書

なるほどなっとく病理学

「シンプル衛生公衆衛生学」2023　南江堂

予習復習のアドバイス

配布プリント、スライドで十分でない場合は、各自参考書等で補足し疾患の症状や経過について理解をるようにしてほしい。

記載日　令和5年　6月 22日

講義要項（シラバス）

年　度	2023 年度	時　期	前期	学　年	1年
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	病理学	講義曜日	月	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1年
講師名	大沼英子	実務経験	歯科医師		
講義目標	**一般目標**				
	各種疾病とその病因、病態生理について医療人として最低限の知識を習得し、自らが専門とする分野の知識・技術を習得するための基礎を築く				
	到達目標				
	①各種疾病やその病因、病態生理に関心を持ち、一層の向学心を持つことができる②各種疾病や病態生理、診断、治療の最低限の知識を想起できるようになる③知識のみならず倫理観を持ち、病態に偏らない客観的で全人的な医療を行う姿勢を持つ				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	病気とは　病理学とは	9	
2	病態と病因①	10	
3	病態と病因②	11	
4	病態と病因③	12	
5	病態と病因④	13	
6	病因と病態⑤	14	
7	病因と病態⑥	15	
8	病因と病態⑦	16	

講義方法　パワーポイントのスライドおよびプリントを用いた対面 講義形式ＰＣ、スクリーン、配布プリント、Ipadを使用する。
成績評価方法 小テスト、レポート、試験等で総合評定する
教科書・参考書 なるほどなっとく病理学(南山堂)
予習復習のアドバイス 配布プリント、スライドで十分でない場合は、各自参考書等で補足し疾患の症状や経過について理解を深めるようにしてほしい。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	1学年
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論	講義曜日	木	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	金子　亮太郎	実務経験	理学療法士として、病院勤務15年		
講義目標	**一般目標**				
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの歴史、医学、医療について理解できる。				
	到達目標				
	1　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの歴史、理念、定義、医学、医療について説明できる。 2　障害構造について、ICIDHやICFで説明できる。 3　リハビリテーションに関わる職種ついて説明できる。 4　リハビリテーションに関わる評価等を理解している。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	リハビリテーションの概念	9	言語聴覚療法
2	急性期・回復期のリハ	10	神経心理リハビリテーション
3	生活期のリハビリテーション	11	義肢・装具・車椅子
4	チーム医療	12	栄養とリハビリテーション
5	国際障害分類（ICIDH）	13	歩行評価
6	国際生活機能分類（ICF）	14	機能・能力評価
7	理学療法	15	日常生活動作評価
8	作業療法	16	

講義方法 対面授業
成績評価方法 試験
参考書 真柄彰・鴨下博　編著.リハビリテーション概論.理工図書,2020 椿原彰夫.リハビリテーション総論.診断と治療社,2021
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期		
学　科	理学療法学科	学　年	1学年		
科目名	公衆衛生学	講義時間	1限目		
		講義曜日	金曜日	講義回数	8
講師名	中谷直樹（A）、畑中里衣子（B）	総時間数	15	単位数	1
講義目標	一般目標 本講義では、社会・環境と健康がどのように疾病と関連するのかを深く考察する。また、理学・作業療法士として必要な疫学的視点を習得することで、疾病予防、健康増進の重要性を学ぶ。さらに、最新の疫学的知見から、医療現場などでの有用な知識を習得する。				
	到達目標 1. 社会及び環境がどのように健康と関連するかを説明できる。 2. 生活習慣と疾病に関する最新の疫学的知見を具体的に説明できる。 3. 各ライフステージにおける公衆衛生活動を説明できる。 4. 理学・作業療法士として疾病予防・健康増進の重要性を系統的に論じる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	11月10日	衛生学・公衆衛生学序論	11		
2	11月17日	保健統計	12		
3	11月24日	疫学とは	13		
4	12月1日	感度、特異度、ROC曲線	14		
5	12月8日	疾病と予防管理	15		
6	12月15日	高齢者の保健	16		
7	1月12日	精神保健	17		
8	1月19日	試験	18		
9			19		
10			20		

講義方法
スライド、資料
講義で使用する機器・教材
履修上の注意事項

成績評価方法
試験、レポート

教科書
シンプル衛生公衆衛生学　2023
参考書

予習復習のアドバイス

記載日　　令和5年6月22日

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	前期	**学　年**	1
学　科	理学療法科	**講義時間**	時間割参照		
科目名	理学療法概論	**講義曜日**	時間割参照	**講義回数**	15
		総時間数	30	**単位数**	2
講師名	籠倉　暁　　井澤　真一	**実務経験**	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	理学療法及び理学療法士の概略を理解する				
	到達目標				
	将来の理学療法士像をイメージできるようになるとともに、この３年間を具体的にどのように過ごす必要があるのかをイメージできるようになる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法概要（籠倉）	9	病期・職域別の理学療法 急性期　（籠倉）
2	理学療法の背景（籠倉） 障害の概念・分類、保健制度	10	病期・職域別の理学療法（籠倉） 回復期
3	理学療法の背景（籠倉） 歴史・法律、職業倫理、日本理学療法士協	11	病期・職域別の理学療法（井澤） 在宅における役割
4	理学療法の構成　　（籠倉）	12	病期・職域別の理学療法（井澤） 生活期（維持期）
5	理学療法に必要な知識と実習（籠倉）	13	病期・職域別の理学療法（井澤）
6	理学療法の主対象（籠倉） 運動器系	14	杖・車いすⅠ （井澤）
7	理学療法の主対象（籠倉） 中枢神経系	15	杖・車いすⅡ （井澤）
8	理学療法の主対象（井澤） 内部障害系、がん	16	

講義方法 講義、調べ学習、課題、グループワーク、発表
成績評価方法 小テスト・課題35点　　授業態度15回×1点=15点　　本試験50点
参考書 15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　理学療法概論　中山書店
予習復習のアドバイス 主に教科書を使用しますが、必要に応じて資料を配布する予定です。講義内容含め全て 期末試験範囲の資料となりますので、復習する際に十分に活用すること。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	後期	**学　年**	1
学　科	理学療法科	**講義時間**	90 分		
科目名	基礎理学療法学	**講義曜日**	変則	**講義回数**	15
		総時間数	30	**単位数**	2
講師名	和地辰紀	**実務経験**	和地：理学療法士として一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション5年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	理学療法評価・治療を行うために必要な基礎科学（解剖学/生理学/運動学）、機能障害の病態やそのメカニズムについて理解する。				
	到達目標				
	理学療法評価・治療に必要な基礎科学、機能障害の病態やそのメカニズムを理解し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	イントロダクション 理学療法士の仕事・現状	9	脳血管障害による片麻痺について
2	理学療法の歴史、倫理	10	パーキンソン病、神経・筋疾患について
3	筋力について	11	変形性股関節症、人工股関節全置換術等について
4	関節可動域（ストレッチを含む）について	12	循環器疾患、呼吸器疾患について
5	バランスについて	13	老年症候群について
6	感覚・運動麻痺について	14	地域包括ケアと理学療法（在宅）について
7	義肢・装具について	15	臨床実習、クリニカルクラークシップについて
8	ADL練習について	16	

講義方法 グループ学習、討議、発表を中心に実施します。
成績評価方法 学期末考査を実施し評定します。
参考書 PTスタートガイド基礎理学療法概論、他に解剖学、生理学、運動学で使用している教科書等
予習復習のアドバイス 主体的に行動しグループ学習で知識を定着させてください。 色んな教科書を見て調べてください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	15：00-15：45		
科目名	理学療法特論Ⅰ	講義曜日	木か金	講義回数	30
		総時間数	30	単位数	1
講師名	狩野　充浩	実務経験	歯科医師		
講義目標	**一般目標** 国家試験対策を前提として基礎専門科目（解剖、生理学）の国家試験問題演習を実施する。演習を通じて学生自身が弱点を把握すること、弱点克服のために重点的学習をすることを目的とする。個々の学生に応じた学習の底上げを目標とする。国試演習に入る前段階としてワークブックを用い、専門科目の学習に慣れるよう準備する。（ワークブック、答えは事前に回収、終了後に返却します）				
	到達目標 解剖生理学問題集（第１段階）予習→確認テスト、採点して解説、その後の国試過去問演習（第２段階）あらかじめ国試問題を提示（45分で10問目安）→自分で解いてくる（毎回、説明者を指定）、他の人に説明して理解してもらえるような解答、解説をつける、→毎回の問題は前もって課題として提出という２段階の流れを経て、専門科目に対応できる力を習得する（注意）すべ				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	（第１段階）やり方説明、ワークブック確認テスト１，採点解説	16	国試問題演習.7、解説45分（国試）
2	ワーク確認テスト２，採点解説	17	国試問題演習.8、解説45分（国試）
3	ワーク確認テスト３，採点解説	18	国試問題演習.9、解説45分（国試）
4	ワーク確認テスト４，採点解説	19	国試問題演習.10、解説45分（国試）
5	ワーク確認テスト５，採点解説	20	国試問題演習.１１、解説45分（国試）
6	ワーク確認テスト６，採点解説	21	国試問題演習.１２、解説45分（国試）
7	ワーク確認テスト７，採点解説	22	国試問題演習.１３、解説45分（国試）
8	ワーク確認テスト８，採点解説	23	国試問題演習.１４、解説45分（国試）
9	第１クール復習確認テスト	24	国試問題演習.１５、解説45分（国試）
10	（第２段階）国試問題演習.1、解説45分（国試）	25	国試問題演習.１６、解説45分（国試）
11	国試問題演習.2、解説45分（国試）	26	国試問題演習.１７、解説45分（国試）
12	国試問題演習.3、解説45分（国試）	27	国試問題演習.１８、解説45分（国試）
13	国試問題演習.4、解説45分（国試）	28	国試問題演習.１９、解説45分（国試）
14	国試問題演習.5、解説45分（国試）	29	国試問題演習.２０、解説45分（国試）
15	国試問題演習.6、解説45分（国試）	30	国試問題演習.２１、解説45分（国試）

講義方法

毎回あらかじめ国試問題を提示→説明をつけて課題として提出（順次ローテーションで説明者を指定）、各回の問題演習は前もって必ず課題として提出。その前の第1段階では、毎回各章の確認テスト→その場で採点→解説を行ないます。課題の未提出や欠席はマイナス、夏季、冬季休暇には必ず課題があります

成績評価方法

出欠、通常課題提出状況、確認テスト、休暇中の課題提出等を総合的に評定する。第１段階終了後に復習確認テスト、すべて終了後に最終課題確認試験（60点満点）を実施します。

参考書

新訂版ニューワークブック解剖生理学（サイエ出版）

予習復習のアドバイス

・基礎専門科目（解剖、生理学）の問題演習、最初はワークを使用して、専門科目学習に慣れることを目標にします。・その後国試問題演習の積み重ねにより、今後の国試対策、模試の受験等に役立つことを目標にします。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法管理学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	7.5
		総時間数	15	単位数	1
講師名	佐藤　美加	実務経験	佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	一般目標				
	理学療法学生としての自己管理、マネジメントの必要性について学ぶ。				
	到達目標				
	①理学療法学生とし、自己管理の必要性を理解し、理学療法士を目指す学修者としての自己管理 ②コンプライアンス（法令遵守）、個人情報保護法、理学療法倫理について理解する ③見学実習に向け、感染対策及び情報管理ができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法学生としての自己管理①(学修要項の説明、時間割・シラバスの見方など)	9	
2	理学療法学生としての自己管理②(学習方法、スケジュール管理など)	10	
3	理学療法管理学総論	11	
4	理学療法士と政策、社会保障制度について	12	
5	法令遵守(コンプライアンス)について	13	
6	理学療法士の職業倫理	14	
7	見学実習における感染対策と個人情報保護	15	
8	まとめ	16	

講義方法 講義、演習
成績評価方法 課題（70％）、参加態度（30％）。課題には今未来手帳の記載状況が含まれます。
参考書（教科書） 今未来手帳
予習復習のアドバイス 今未来手帳を毎日持ち歩き、期末試験や課題の提出期限を意識した生活を送りましょう。また、毎日今未来手帳に日々の勉強量を記録しましょう。その記録状況を成績評価に組み入れます。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	片田　昌子	実務経験	理学療法士：29年		
講義目標	**一般目標**				
	理学療法検査および評価の定義や目的を理解し，検査項目それぞれの内容について概要を理解する。				
	到達目標				
	理学療法検査および評価の定義や目的を理解し，検査項目それぞれの内容について概要を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論 理学療法評価の対象、問題点抽出、プログ	9	第８章　深部腱反射・病的反射 反射とは・深部反射
2	総論 記録	10	第８章　深部腱反射・病的反射 表在反射・病的反射
3	第１章　一般的評価事項 医療情報、病歴のとり方	11	第１０章　筋トーヌス検査 筋トーヌスのメカニズム，正常と異常
4	第１章　一般的評価事項 観察、検査、測定、臨床検査、画像検査	12	第１０章　筋トーヌス検査 筋トーヌスの検査方法
5	第２章　バイタルサイン 心拍・脈拍、血圧、体温	13	第２０章　高次脳機能検査 認知機能のみ
6	第２章　バイタルサイン 意識障害、体温、呼吸、経皮的酸素飽和度	14	評価のまとめ
7	第７章　知覚検査 知覚とは・表在感覚	15	実技試験
8	第７章　知覚検査 深部感覚・複合感覚	16	

講義方法 講義および実技
成績評価方法 筆記試験50％、実技試験50％、筆記試験・実技試験ともに60点以上で合格とします。
参考書 理学療法評価学　改定第6版　　金原出版株式会社
予習復習のアドバイス 教科書の該当箇所を読み、概略をつかんでおいてください。 実技は、繰り返し練習をしてください。

講義要項（シラバス）

年　度	令和5年度	時　期	通年	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	変則		
科目名	理学療法評価学Ⅱ	講義曜日	変則	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	3
講師名	日下　優　籠倉　暁	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年、理学療法士として勤務。 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	骨関節系の代表的な測定法である、関節可動域測定及び徒手筋力検査法を習得する				
	到達目標				
	関節可動域測定及び徒手筋力検査法の意義及び目的を理解し、実施できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	評価学Ⅱ総論・関節可動域測定概論	13	徒手筋力検査法（上肢）
2	関節可動域測定（上肢）	14	徒手筋力検査法（上肢）
3	関節可動域測定（上肢）	15	徒手筋力検査法（まとめ）
4	関節可動域測定（まとめ）	16	徒手筋力検査法（下肢）
5	関節可動域測定（下肢）	17	徒手筋力検査法（下肢）
6	関節可動域測定（下肢）	18	徒手筋力検査法（下肢）
7	関節可動域測定（頸部・体幹）	19	徒手筋力検査法（下肢）
8	関節可動域測定（まとめ）	20	徒手筋力検査法（下肢）
9	筋力測定法概論、徒手筋力検査法総論	21	徒手筋力検査法（下肢）
10	徒手筋力検査法（上肢）	22	徒手筋力検査法（頸部・体幹）

11	徒手筋力検査法（上肢）	23	徒手筋力検査法（まとめ）
12	徒手筋力検査法（上肢）	24	

講義方法 実技、講義
成績評価方法 実技試験、筆記試験　　状況によっては実技試験が変更になる可能性あり
参考書 理学療法評価学（金原出版）、新・徒手筋力検査法 第10版（協同医書出版）
予習復習のアドバイス ・予習の際は教科書の文章を読み、必要な知識と実技の方法を確認すること。 ・空き時間に実習室を使用し同級生や先輩に確認してもらう習慣をつけてください。実技の方法だけではなく基本的な知識が言えるかも確認してもらうこと。 ・声に出して実技練習をすること。例えば、関節可動域テストでは基本軸と移動軸、徒手筋力検査では筋の起始と停止を発生しながら練習を行うこと。 ・運動学や解剖学、実技科目と関連して学習すると相互の理解が深まります。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	後期	**学　年**	1
学　科	理学療法科	**講義時間**	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅲ	**講義曜日**	時間割参照	**講義回数**	15
		総時間数	30	**単位数**	2
講師名	佐藤　美紀	**実務経験**	医療機関（病院）で16年、介護老人保健施設で4年、教員13年　理学療法士として勤務		
講義目標	**一般目標**				
	理学療法評価の基礎となる項目の総合的理解を深めることで、2年次以降の疾患特性、評価手技、治療法等の各論的な学習に繋げる。				
	到達目標				
	基礎的な理学療法評価法について理解し、健常者に対して実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	計測の基礎 触診・ランドマーク・姿勢の整え方	9	第11章 日常生活活動（動作）検査①
2	形態測定①	10	日常生活活動（動作）検査②
3	形態測定②	11	第12章 姿勢・動作分析①
4	第6章 痛みの評価①	12	姿勢・動作分析②
5	痛みの評価②	13	姿勢・動作分析③
6	第9章 バランステスト①	14	姿勢・動作分析④
7	バランステスト②	15	第20章 高次脳機能検査
8	バランステスト③	16	

講義方法

講義、実技　　※課題あり

成績評価方法

課題（３回×５点＝15点）＋学期末筆記試験（70点）＋小実技テスト（３回×５点＝15点）＝100点　　※60点以上合格

教科書

理学療法評価学　改訂第6版（金原出版）

予習復習のアドバイス

授業後に配布された授業資料を復習して下さい。課題は、配布される評価用紙（実際に計測した結果を記したもの）を次回の授業前までに提出して下さい。小実技は、ランドマーク、形態計測、アライメントを次々回の授業に実施予定。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	1学年
学　科	理学療法科	講義時間	変則		
科目名	運動療法Ⅰ	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	井澤　真一	実務経験	井澤：介護老人保健施設にて理学療法士として5年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	運動療法技術に関する基礎的知識と技術を習得する				
	到達目標				
	1.基本的な運動療法の目的を説明できる　2.基本的な運動療法の原理原則を説明できる　　3.基本的な運動療法を実技を通して経験し、他者に実施できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動療法とは？（運動療法の概要）	9	基本的な運動療法 関節可動域運動・筋力増強運動　実技：上
2	運動の基礎的知識	10	基本的な運動療法 関節可動域運動・筋力増強運動　実技：上
3	運動中止基準・運動療法の進め方	11	基本的な運動療法 関節可動域運動・筋力増強運動　実技：下肢・
4	基本的な運動療法 関節可動域について	12	基本的な運動療法 関節可動域運動・筋力増強運動　実技：下肢・
5	基本的な運動療法 関節可動域について	13	基本的な運動療法 持久力について
6	基本的な運動療法 関節可動域運動	14	基本的な運動療法 全身持久力増強運動
7	基本的な運動療法 筋力について	15	基本的な運動療法 全身持久力増強運動　実技
8	基本的な運動療法 筋力増強運動	16	

講義方法 講義で運動療法の目的・原理原則・実施方法の基礎的知識を説明し、その後、実際に体を動かしながら実技能力を習得していく。
成績評価方法 小テスト30％、期末試験70％
参考書 教科書：スライド・プリント配布 参考書：理学療法ハンドブック第1巻理学療法の基礎と評価　協同位医療出版社、シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト(改訂第3版)　南江堂、運動療法学第2版　文光堂
予習復習のアドバイス 解剖学・運動学・生理学の内容を確認しながら運動療法とのつながりを理解することに努めましょう。実技の際には積極的にPT役、患者役を行うなどして、自分の体を可能な限り使い体験しましょう。実際の患者で実施できるように技術を習得しましょう。実技に関しては短時間で習得できるものではない為、それぞれの時間を利用し繰り返し練習を行いましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	1
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	見学実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	
		総時間数	40	単位数	1
講師名	小宮山与一、左右田　博、佐藤　美加	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設10年、理学療法士として勤務。 左右田：医療機関に15年、理学療法士として勤務。 佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度		
講義目標	**一般目標** 1.現場での仕事における目標や職場の理念などに関する講義を通して、 ①理学療法士の責任・役割について学ぶ。 ②医療サービスとしての接遇やコミュニケーションの重要性について学ぶ。 2.理学療法士と対象者との生き生きとした関わりの場面を見学させていただくことで、 ①理学療法士の役割と責任について知る。 ②理学療法士となる目的への意識と学習意欲の向上を図る。 3.コンティニュー・ケア・ネットワークのモデルを見学することで、 ①医療保険から介護保険・地域までの一連のリハビリテーションの流れを知る。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	学内実習（20時間）　＊学外に切り替える可能性有	5	医療法人松田会（病院及び老健）見学(5時間)
2	**萩の郷福祉工場(身体障害就労支援）見学（3.5時間）**	6	医療と福祉分野のロボット展　見学(3時間)
3	宮城県リハビリテーション支援センター見学(4時間)	7	竹口病院　オンライン見学（3時間）
4	デイキャリア(精神障害就労支援）見学(1.5時間)	8	

講義方法
成績評価方法 実習に関する最終評定は、出席状況や参加態度などを総合的に判断し、養成施設が判定（単位認定）する。
教科書
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーション論Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	7.5
		総時間数	15	単位数	1
講師名	江崎　浩明　佐藤　美加	実務経験	江崎：産業・学校・医療領域にて相談業務約15年間。佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	**一般目標**				
	臨床実習Ⅰに向け、患者・実習指導者などの考えを認知・共感・理解し，有効な関係を築くコミュニケーション能力を養う。				
	到達目標				
	①社会人としてのマナーを身に着ける。 ②臨床で使用するコミュニケーションスキルを身に着ける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	社会人としてのコミュニケーション① 挨拶	9	
2	社会人としてのコミュニケーション② 電話、お礼状、電子メール	10	
3	臨床で使用するコミュニケーションスキル コミュニケーションスキルを学ぶ前に	11	
4	臨床で使用するコミュニケーションスキル 医療面接での対話のしかた	12	
5	臨床で使用するコミュニケーションスキル 相手との関係を築く方法、質問のしかた	13	
6	臨床で使用するコミュニケーションスキル 患者さんの家族とのコミュニケーション	14	
7	臨床で使用するコミュニケーションスキル スーパーバイザーとのコミュニケーション	15	
8	まとめ	16	

講義方法

講義、演習

成績評価方法

各教員50点ずつで評定いたします。

参考書（教科書）

PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド（医学書院）

予習復習のアドバイス

教科書を読んで、日常生活で実践することを継続してください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2(Aｸﾗｽ)
学　科	理学療法科	講義時間	狩野：水13：15-16：30 高田：1回目ー7回目90分、8回目45分		
科目名	生理学実習	講義曜日	狩野：月、水 高田：月、金	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	狩野　充浩/高田　拓明	実務経験	狩野：歯科医師 高田：大学等で解剖生理学講義及び医学系大学院教員		

講義目標	**一般目標**
	狩野：学生が1年生での生理学の講義の内容をふまえて、実際に実習で生体反応等をみることによって、生理学的な理解を深めることを目標とする 高田：１年次の生理学を復習することを目的とし、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の学習を行う。さらに、２年次の疾患別理学療法の学習理解に繋げることを目的とし、各種疾病や加齢が安静や運動時の身体機能に及ぼす影響について，グループ実習（調べ学習と発表、課題作成）、授業解説を通して学習理解を図る.
	到達目標
	狩野：各実習課題の内容について、実際に計測、データの解析、結果の考察等を行なうことによって、人体の生理学的な機能の理解と、問題解決能力を養うことができるようにする 高田：①各種臓器における位置や構造の解剖学的名称、生理学的機能を理解し、説明することができる。 ②身体活動（運動）に応じて引き起こされる生理的反応（生理応答）について説明することができる。 ③各種疾病や加齢が安静や運動時の生理応答に及ぼす影響について、医学的理屈を基に考察し説明することができる。

回数	講義内容	回数	講義内容
1	課題１のデータ採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	13	課題５のデータ採取、レポート作成（Lab　Station システム）（狩野）
2	課題１のデータ採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	14	課題５のデータ採取、レポート作成（Lab　Station システム）（狩野）
3	課題１のデータ採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	15	課題５のデータ採取、レポート作成（Lab　Station システム）（狩野）
4	課題２のデータ採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	16	オリエンテーション，講義，グループ実習 範囲：細胞，遺伝子，ホメオスタシス（高田）
5	課題２のデータ採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	17	講義，グループ実習 範囲：神経系（高田）
6	課題２のデータ採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	18	講義，グループ実習 範囲：骨格筋系（高田）
7	課題３のデータ採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	19	講義，グループ実習 範囲：呼吸器系（高田）
8	課題３のデータ採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	20	講義，グループ実習 範囲：循環器系（高田）

9	課題３のデーター採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	21	講義，グループ実習 範囲：消化器系（高田）
10	課題４のデーター採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	22	講義，グループ実習 範囲：加齢（高田）
11	課題４のデーター採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	23	試験・解説（高田）
12	課題４のデーター採取、レポート作成（Lab Station　システム）（狩野）	24	

実習方法

狩野：各課題の内容に沿ってグループ毎に、データ採取、レポート作成、提出まで
を行って終了したものとする、Lab　Station実習システムを使用する
高田：スライド講義、グループ実習（調べ学習、発表、課題作成）

実習で使用する機器・教材

狩野：実習に使用する機材等はこちらで準備する、他に必要なものがあれば適宜指示する

履修上の注意事項

狩野：・実習に使用する機器類の取り扱いには細心の注意を払い、破損等がないようにすること
・各回のレポートは遅延、未提出が無いようにする事、実習の欠席は他のメンバーに迷惑がかかります

成績評価方法

狩野：実習態度や課題提出状況、課題の内容等を加味して
課題レポート点×０．７＋出席点（無欠席で30点）で評価する（狩野分）
最終的には両担当分評定は、コマ数割合に応じて合算予定
高田：（生理学実習全45時間中15時間のため33点分）
第8回目の試験：20点
グループ実習での提出物：13点

教科書

狩野：実習では特に指定はしないが、レポート作成の際に教科書、その他の参考書等は必要
高田：授業スライドをPDFで配布します。他、各自の教科書を使用してください.

参考書

狩野：適宜紹介する

予習復習のアドバイス

狩野：・その日の実習課題に相当する部分はあらかじめ教科書等で予習する事
・実際に実習で使用する機器は、数が限られる場合があるのでうまく譲りあって使用する事
・機器類を使用する際は使用方法を考えて取り扱いに細心の注意を払い、破損や紛失が
　絶対に起こらないように気をつける事

高田：シラバスを確認し、事前に授業範囲を予習（１年次の復習）をしてから授業に臨んでください。予習は授業理解を促し学習効果を高めます。また、予習や授業内で分からなかったことを積極的に質問してください。授業内で解説をします。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	前期	**学　年**	2
学　科	理学療法科	**講義時間**	時間割参照		
科目名	運動学Ⅲ	**講義曜日**	木曜日	**講義回数**	7.5
		総時間数	15	**単位数**	1
講師名	三浦秀幸	**実務経験**	理学療法士		
講義目標	**一般目標**				
	運動や障害を評価するために必要な捉え方・考え方の基礎となる運動学的知識のうち、活動（運動）を継続するメカニズムについて習得する。				
	到達目標				
	① 活動（運動）を継続する上で必要となる運動耐容能について説明できる ② 運動による呼吸の変化について説明できる ③ 運動による循環の変化について説明できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	内臓の位置・大きさ・役割	11	
2	呼吸器系の解剖生理運動学①	12	
3	呼吸器系の解剖生理運動学②	13	
4	循環器系の解剖生理運動学①	14	
5	循環器系の解剖生理運動学②	15	
6	運動とバイタルサイン	16	
7	呼吸循環応答	17	
8	テスト	18	
9		19	
10		20	

講義方法 対面授業を基本とします。
成績評価方法 学期末試験
教科書 解剖学、生理学、運動学
予習復習のアドバイス 教科書、資料を利用しましょう。 わからないところは積極的に教員に確認しましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	長名シオン	実務経験			

講義目標

一般目標

運動学で修得した知識をもとに、体表からの視診・触診を通じて、正常な関節構成体の構造と機能を確認し、さまざまな身体運動・動作を運動学的に分析することができる。

到達目標

①実習を通じて、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解することができる。
②運動と動作に関して、観察・測定・分析の初歩的手段を体験することができる。
③観察・測定・分析の結果をレポートとしてまとめることができる。

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動学実習ガイダンス/概要説明	13	動作解析装置による歩行解析（異常歩行）
2	運動学実習ガイダンス/概要説明	14	動作解析装置による歩行解析（異常歩行）
3	プレゼンテーション/グループディスカッション	15	学生実習 ①
4	プレゼンテーション/グループディスカッション	16	学生実習 ①
5	動作解析装置・床反力計・筋電図 操作説明	17	学生実習 ②
6	動作解析装置・床反力計・筋電図 操作説明	18	学生実習 ②
7	床反力計によるバランステスト	19	測定データの解析レクチャー
8	床反力計によるバランステスト	20	測定データの解析レクチャー
9	動作解析装置・床反力計による立ち上がり動作	21	学生実習 プレゼンテーション発表
10	動作解析装置・床反力計による立ち上がり動作	22	学生実習 プレゼンテーション発表
11	動作解析装置による歩行解析	23	学生実習 プレゼンテーション発表
12	動作解析装置による歩行解析	24	

講義方法

授業中に実習課題を提示し，その課題について個々人もしくはグループで解決していく．その実習で得られた結果をレポートにまとめ，作成・提出をする．

成績評価方法

学期末考査：50点、レポート：姿勢分析・立ち上がり分析・歩行分析・寝返り分析・起き上がり分析　計5回×10点＝50点、レポート提出遅れ（減点5点）内容不足(減点)

参考書

特になし

予習復習のアドバイス

わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。常に疑問を持ち臨むこと。個々人で調べることが多くなりますので、時間に余裕を持って調べること。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2年
学　科	理学療法科	講義時間			
科目名	内科学	講義曜日		講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	原田、木幡、堀田、川上、伊藤、大沼	実務経験	医師		

講義目標	
	一般目標
	近年の超高齢社会において、リハビリテーション医療における対象疾患も高齢者の抱える内科疾患を理解し、診療に当たらねばならない。そのため、各疾患像を正しく理解し、臨床診療における対象者からの訴えに傾聴でき、医師と連携がスムーズに行えるような専門職となることを目標とする。
	到達目標
	各疾患の症候と病態生理を理解し、診断・治療・予後の経過を正しく理解できる。日々の診療の中で、身近に接する対象者の症状から専門職としての対応を判断し、実施出来る。検査データが示す疾患の特性を認識する

回数	講義内容	回数	講義内容
1	内科臨床とリハビリテーションとの関連性	9	腎機能疾患
2	症候学	10	腎機能疾患
3	循環器疾患	11	内分泌疾患
4	循環器疾患	12	内分泌疾患
5	代謝障害	13	呼吸器疾患
6	代謝障害	14	呼吸器疾患
7	血液・造血器疾患	15	感染症
8	血液・造血器疾患	16	

講義方法　配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。 オンライン授業を中心に実施する
成績評価方法 定期試験,出席率、授業態度から総合的に判断する。
教科書・参考書 標準理学療法・作業療法学専門基礎分野　内科学　第４版
予習復習のアドバイス 予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

講義要項（シラバス）

年　度	2023 年度	時　期	通年	学　年	2年
学　科	作業療法科・理学療法科	講義時間			
科目名	整形外科学	講義曜日		講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	羽鳥,鳥谷部、大井、本地,後藤、上遠野	実務経験	医師/作業療法士		
講義目標	**一般目標**				
	整形外科疾患の各疾患像を正しく理解し、臨床診療における対象者からの訴えに傾聴でき、医師と連携がスムーズに行えるような専門職となることを目標とする。				
	到達目標				
	運動器の知識が理解できる。、運動器疾患におけるADL障害を理解できる。最新の手術法や治療法について理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	整形外科基礎知識	9	末梢神経における外傷疾患①
2	運動器評価および検査法	10	末梢神経における外傷疾患②
3	運動器評価および検査法	11	脊髄損傷①
4	整形外科的治療法	12	脊髄損傷②
5	整形外科的治療法	13	関節における外傷疾患
6	骨軟部腫瘍①	14	腱靭帯における外傷疾患・スポーツ外傷
7	骨軟部腫瘍②	15	先天性骨関節疾患
8	熱傷	16	

講義方法 配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。オンライン授業を中心に実施する
成績評価方法 定期試験,課題等で総合評定する
教科書・参考書 医学書院　標準整形外科学第14版
予習復習のアドバイス 予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

講義要項（シラバス）

年　度	2023　年度（令和5　年度）	時　期	通年		
学　科	理学療法科	学　年	2学年		
科目名	神経内科学	講義時間			
		講義曜日		講義回数	8
講師名	中村　起也	総時間数	30	単位数	2
講義目標	**一般目標** リハビリテーション医療において主な対象者である中枢神経疾患をはじめとする 神経疾患の症候とその治療を理解し、適切なリハビリテーション医療を提供できるようになる				
	到達目標 1、神経疾患の症候を理解する 2、神経学的徴候の診断の方法を理解する 3、神経疾患の生活障害を理解する 4、各疾患の臨床像を理解し、その中からOTとして取り組むべきことを模索出来る				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		神経学的診断と評価	11		**神経疾患各論** 脳血管障害
2		神経学的検査法	12		**神経疾患各論** 認知症
3		**神経症候学** 意識障害・脳死・植物状態	13		**神経疾患各論** 脳腫瘍
4		**神経症候学** 運動麻痺、錐体路徴候	14		**神経疾患各論** 外傷性脳損傷
5		**神経症候学** 錐体外路徴候・不随意運動	15		**神経疾患各論** 脊髄疾患
6		**神経症候学** 運動失調	16		**神経疾患各論** 変性疾患
7		**神経症候学** 感覚障害			
8		**神経症候学** 構音障害			
9		**神経症候学** 高次脳機能障害（失認・失行）			
10		**神経症候学** 高次脳機能障害（認知症）			

講義方法

教科書、パワーポイント教材、DVDを使用する

講義で使用する機器・教材

履修上の注意事項

成績評価方法

小テスト、出席状況、学期末試験等総合的に評価を行う

教科書

標準理学療法・作業療法学専門基礎分野　神経内科学 第5版　医学書院

参考書

予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2年
学　科	理学療法科	講義時間			
科目名	小児科学	講義曜日		講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	大沼　晃、奈良　隆寛、田中総一郎、松田　均	実務経験	医師/歯科医師/作業療法士		
講義目標	**一般目標** リハビリテーション医療における小児疾患事例の対象者は、以前は先天性疾患や脳性麻痺などの神経疾患が主であり、関節拘縮や筋力低下などによる四肢運動器への関わりが中心であった。最近においては、小児腫瘍性疾患や極低出生体重の事例など心肺機能が未熟な状態のケースへの関わりも増え、よりハイリスクな事例も増えてきている。小児疾患の事例に関わる際には、常に発達ということを意識して臨まねばならず、また母親やとりまく家族への支援も視野に臨むため、適切な対応が行えるよう小児疾患の特徴を理解する。 **到達目標** リハビリテーション医療における小児疾患事例の対象者は、以前は先天性疾患や脳性麻痺などの神経疾患が主であり、関節拘縮や筋力低下などによる四肢運動器への関わりが中心であった。最近においては、小児腫瘍性疾患や極低出生体重の事例など心肺機能が未熟な状態のケースへの関わりも増え、よりハイリスクな事例も増えてきている。小児疾患の事例に関わる際には、常に発達ということを意識して臨まねばならず、また母親やとりまく家族への支援も視野に臨むため、適切な対応が行えるよう小児疾患の特徴を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	小児疾患の診断と治療の概要①（大沼）	9	発達障害について①（奈良）
2	小児疾患の診断と治療の概要②（大沼）	10	発達障害について②（奈良
3	正常と異常の診方（特に乳幼児期）（大沼）	11	発達障害領域の支援について①（松田）
4	先天異常と周産期異常、遺伝病について（大沼）	12	発達障害領域の支援について②（松田）
5	未熟児医療について①（奈良）	13	障害児医療の今後①・いのちの授業について（田中）
6	未熟児医療について②（奈良）	14	障害児医療の今後②・いのちの授業について（田中）
7	腫瘍性疾患・ターミナル・ケア①（奈良）	15	まとめ
8	腫瘍性疾患・ターミナル・ケア②（奈良）	16	

11項から15項はOTのみ

講義方法　配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める。
成績評価方法 定期試験100％、欠席・授業態度は減点とする。
教科書・参考書 標準理学療法学・作業療法学　小児科学（第3版）医学書院
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度（令和5年度）	時　期	通年		
学　科	理学療法科	学　年	2学年		
科目名	精神医学	講義時間	１～５時限目		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	15
講師名	佐藤健太、島田真須美、酒井良隆	総時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	精神科医療において関わる症例の疾患構造について理解する。また各疾患の治療法について概略を理解する。				
	到達目標				
	精神医学の学習を通じて、人の心身の健康状態のあり方を認識出来、また精神疾患の症候とその治療について正しく理解して、理学療法士としてリハビリテーションを行う際に系統立てて考えられるようになる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1		オリエンテーション	11		摂食障害
2		統合失調症①	12		パーソナリティ障害
3		統合失調症②	13		精神障害の診断と評価（佐藤）
4		統合失調症③	14		認知症の診断と治療①（島田）
5		気分（感情）障害①	15		認知症の診断と治療②（島田）
6		気分（感情）障害②	16		
7		気分（感情）障害③	17		
8		てんかん	18		
9		依存症関連	19		
10		神経症性障害	20		

講義方法

座学形式が中心である。

講義で使用する機器・教材

履修上の注意事項

予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。

成績評価方法

期末考査（80%）、出席率（20%）で評定する。

教科書

標準理学療法・作業療法学専門基礎分野　精神医学

参考書

予習復習のアドバイス

記載日　令和5年　3月　27日

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	通年	**学　年**	2年
学　科	作業療法科	**講義時間**			
科目名	リハビリテーション医学	**講義曜日**		**講義回数**	15
		総時間数	30	**単位数**	2
講師名	佐直、大井、本地、原田、小笠原	**実務経験**	医師/作業療法士		
講義目標	**一般目標**				
	21世紀のリハビリテーション医療は障害者の2次的合併症の予防と健康増進である。本講では、総論として疾病治療とリハビリテーション医療の特性、診断と機能評価のとして廃用症候群、排尿障害、褥瘡、摂食・嚥下障害を扱う。各論では、リハビリテーション医療の主な関係、特殊な問題対象疾患について、国際生活機能分類ICFの生活機能とその障害の側面から学修する。				
	到達目標				
	医学的リハビリテーションの基本が理解できる。.生活機能の測定、評価について説明できる。医学的リハビリテーションの対象疾患の障害(生活機能の負の面)と介入が理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	リハビリテーション医学とは（佐直）	9	脊髄疾患のリハビリテーション
2	診断と機能評価総論総論	10	脊髄疾患のリハビリテーション
3	疾病治癒とリハビリテーション医療	11	切断と義肢
4	廃用症候群	12	切断と義肢
5	フィットネスと内部障害のリハビリテーション①（原田Ｄｒ．）	13	RAのリハビリテーション
6	フィットネスと内部障害のリハビリテーション②（原田Ｄｒ．）	14	RAのリハビリテーション
7	脳血管疾患のリハビリテーション①（渡邊	15	骨関節疾患のリハビリテーション
8	脳血管疾患のリハビリテーション②（渡邊	16	

講義方法	配布する資料を中心に、パワーポイントと板書によって講義を進める
成績評価方法 定期試験で評定する。	
教科書・参考書 最新リハビリテーション医学第3版（医歯薬出版）	
予習復習のアドバイス 予習・復習を行うこと、わからないことは講義終了後質問を行い、理解を深めること。	

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	A：3限目、B：4限目		
科目名	栄養学Ⅱ	講義曜日	金	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	菅原　詩緒里	実務経験	管理栄養士		
講義目標	**一般目標**				
	栄養・代謝障害と疾病の関連及び疾病治療としての栄養管理について学修する。				
	到達目標				
	疾病の予防や治療における栄養管理について説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	栄養ケア・マネジメント	11	
2	栄養状態の評価・判定	12	
3	ライフステージと栄養	13	
4	臨床栄養（病院食と栄養剤の種類）	14	
5	臨床栄養（疾患・症状別食事療法）	15	
6	健康づくりと食生活	16	
7	まとめ	17	
8	テスト・解説	18	
9		19	
10		20	

講義方法 スライド資料、教科書を使用した講義
成績評価方法 テスト：65点、出席：2点×7回、課題または小テスト：3点×7回
教科書 人体の構造と機能[3]栄養学　第13版(医学書院)
予習復習のアドバイス 授業内容を理解した上で課題または小テストを実施し、不明な点は積極的に質問をすること。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法特論Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	井澤　真一、三浦　信明	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務　三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	**一般目標**				
	臨床医学と理学療法の関係性を理解し、それぞれの知識を定着させる。				
	到達目標				
	各疾患と理学療法の関係性を理解し、まとめ、発表できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	9	発表
2	各疾患と理学療法の調べ学習	10	発表
3	各疾患と理学療法の調べ学習	11	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得
4	各疾患と理学療法の調べ学習	12	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得
5	各疾患と理学療法の調べ学習	13	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得
6	発表	14	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得
7	発表	15	理学療法に関連する基礎および臨床医学の知識習得
8	発表	16	

講義方法

グループワーク、発表、小試験など

成績評価方法

発表、筆記試験

参考書

特になし

予習復習のアドバイス

主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めいていくこと。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅳ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一、PT科教員	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設10年、理学療法士として勤務。		

講義目標	
	一般目標
	疾病に関係なく理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定技法を修得し、その結果の解釈について学ぶ。
	到達目標
	理学療法の基本的評価技術を修得する。

回数	講義内容	回数	講義内容
1	姿勢分析　概要 小宮山	9	整形外科疾患検査③ 三浦
2	姿勢分析　演習 小宮山	10	姿勢反射検査　概要 日下
3	姿勢分析　演習 小宮山	11	姿勢反射検査　演習 日下
4	動作分析　概要 小宮山	12	協調性検査　概要 井澤
5	動作分析　演習 小宮山	13	協調性検査　演習 井澤
6	動作分析　演習 小宮山	14	片麻痺機能検査　概要 籠倉
7	整形外科疾患検査① 三浦	15	片麻痺機能検査　演習 籠倉
8	整形外科疾患検査② 三浦	16	

講義方法

講義形式、グループワーク、発表など

成績評価方法

評定点数配分：小宮山40点　三浦15点　井澤15点　籠倉15点　日下15点　合計100点

授業態度、提出物、発表態度・内容、出席状況を考慮して評価する。状況に応じて小テストを行い成績に加味する。

参考書

特になし

予習復習のアドバイス

主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めいていくこと。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅴ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	三浦信明、井澤真一	実務経験	三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。 井澤：介護漏示保健施設にて理学療法士として5年勤務。		
講義目標	**一般目標**				
	症例の背景に応じた検査測定の選択と実施、結果の判断・解釈について学修する。				
	到達目標				
	症例の背景に応じた検査測定を選択し、実践できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	9	各種理学療法評価の学修と実施 病的反射
2	各種理学療法評価の学修と実施 ROM-t　上肢	10	各種理学療法評価の学修と実施 MAS
3	各種理学療法評価の学修と実施 ROM-t　下肢	11	各種理学療法評価の学修と実施 形態測定　四肢長
4	各種理学療法評価の学修と実施 MMT　上肢	12	各種理学療法評価の学修と実施 形態測定　周径
5	各種理学療法評価の学修と実施 MMT　下肢	13	各種理学療法評価の学修と実施 バランス評価
6	各種理学療法評価の学修と実施 表在感覚検査　触覚検査	14	各種理学療法評価の学修と実施 10m歩行速度
7	各種理学療法評価の学修と実施 深部感覚検査　位置覚	15	試験
8	各種理学療法評価の学修と実施 腱反射	16	

講義方法 グループワーク、実技
成績評価方法 筆記試験50％、実技試験50％
参考書 理学療法評価学（金原出版）
予習復習のアドバイス 各種実技の実施手順を再確認し、授業に参加しましょう。授業内で実技の録画と自身の 実技についての振り返りを行います。実技練習にて積極的に復習を行いましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	通年	**学　年**	2年
学　科	理学療法科	**講義時間**	変則		
科目名	理学療法画像評価学	**講義曜日**	変則	**講義回数**	8
		総時間数	15	**単位数**	1
講師名	小宮山　与一、阿部　浩明	**実務経験**	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設10年、理学療法士として勤		
講義目標	**一般目標**				
	理学療法の実施に関係する画像評価について学修する。				
	到達目標				
	臨床で活用されている医用画像撮影装置の原理と診かたについて理解するとともに、理学療法への役立て方を習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	各種モダリティの原理とその診かた	11	
2	脳画像の理解	12	
3	脳画像のリハビリテーションへの応用	13	
4	超音波画像診断装置の理解	14	
5	超音波画像診断装置のリハビリテーションへの応用	15	
6	超音波画像診断装置トピックス	16	
7	画像評価に基づく疾患別ケーススタディ	17	
8	画像に関連する国家試験問題の理解	18	
9		19	
10		20	

講義方法

対面授業と遠隔通信アプリを使用したオンライン授業を併用して行う。

成績評価方法

「筆記試験」

参考書

PT・OTのための画像のみかた　金原出版株式会社　監修 山下敏彦

予習復習のアドバイス

画像の理解には、解剖学の基礎知識が必要になります。関連分野の復習を事前に行い参加してください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	脳血管障害理学療法Ⅰ	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	阿部　浩明、籠倉　暁、左右田　博	実務経験	籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	脳血管疾患などの中枢神経疾患の病態及び脳血管障害の概要を知り、それらの理学療法評価について学ぶ。				
	到達目標				
	学生が脳血管疾患の病態を理解し、学生同士で理学療法評価の実践ができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	中枢神経系理学療法の概要	9	病態・臨床症状と評価
2	神経機能解剖　画像と病態	10	病態・臨床症状と評価
3	基礎医学的知識と臨床症状 脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍	11	病態・臨床症状と評価
4	脳血管疾患のリスクマネジメント	12	病態・臨床症状と評価
5	病態・臨床症状と評価	13	中枢神経系理学療法 統合と解釈
6	病態・臨床症状と評価	14	中枢神経系理学療法 予後予測、目標設定
7	病態・臨床症状と評価	15	中枢神経系理学療法 ケーススタディ
8	病態・臨床症状と評価	16	

講義方法

講義・実技・グループワーク

成績評価方法

筆記試験

教科書

最新　理学療法講座　中枢神経系理学療法学　医歯薬出版株式会社

予習復習のアドバイス

わからないところは、自分で調べたり、教員に確認するようにしましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価・臨床推論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	井澤　真一・日下　優・小宮山　与一・左右田　博・籠倉　暁	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務。		
講義目標	**一般目標**				
	EBPTにつながる基本として、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。				
	到達目標				
	理学療法評価・臨床推論の流れを理解し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	整形疾患における異常動作・現象の臨床推 小宮山	9	脳血管疾患における異常動作・現象の臨床 左右田
2	整形疾患における異常動作・現象の臨床推 小宮山	10	神経筋疾患における異常動作・現象の臨床 井澤
3	整形疾患における異常動作・現象の臨床推 小宮山	11	神経筋疾患における異常動作・現象の臨床 井澤
4	整形疾患における異常動作・現象の臨床推 籠倉	12	神経筋疾患における異常動作・現象の臨床 井澤
5	整形疾患における異常動作・現象の臨床推 籠倉	13	神経筋疾患における異常動作・現象の臨床 日下
6	整形疾患における異常動作・現象の臨床推 籠倉	14	神経筋疾患における異常動作・現象の臨床 日下
7	脳血管疾患における異常動作・現象の臨床 左右田	15	神経筋疾患における異常動作・現象の臨床 日下
8	脳血管疾患における異常動作・現象の臨床 左右田	16	

講義方法

グループワーク、実技

成績評価方法

授業態度、提出物、出席状況、教員とのやり取りを考慮して評価する。状況に応じてテストを行い成績に加味する。

参考書

特になし

予習復習のアドバイス

主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めいていくこと。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	井澤　真一、理学療法科全教員	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務。		
講義目標	**一般目標**				
	各疾患の理学療法ガイドラインに基づいて、運動療法についての知識を深め、習得する。				
	到達目標				
	各種障害に対する運動療法の理論を理解し、実践できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	感覚障害に対する運動療法 （和地）	9	高次脳機能障害に対する運動療法 （左右田）
2	感覚障害に対する運動療法 （和地）	10	高次脳機能障害に対する運動療法 （左右田）
3	バランス障害に対する運動療法 （日下）	11	アスリートに対するパフォーマンス向上運動・予防トレーニングの実際① （小宮山）
4	バランス障害に対する運動療法 （日下）	12	アスリートに対するパフォーマンス向上運動・予防トレーニングの実際② （小宮山）
5	協調性運動障害に対する運動療法 （井澤）	13	物理的刺激と運動療法 （佐藤）
6	協調性運動障害に対する運動療法 （井澤）	14	特殊理学療法手技体験
7	姿勢障害に対する運動療法 （籠倉）	15	特殊理学療法手技体験
8	姿勢障害に対する運動療法 （籠倉）	16	

講義方法

スライド、配布資料を使った講義・実技、グループワーク

成績評価方法

出席状況、授業態度、課題、試験で総合して判定する

参考書

運動療法学第2版　障害別アプローチの理論と実際

予習復習のアドバイス

授業でわからないときは、教員に質問してください。

実技を多く含むため、自主的に実技練習をして下さい。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	物理療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	3
講師名	佐藤　美加	実務経験	医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	**一般目標**				
	各種物理療法の特徴及び生理学的効果等を理解する。				
	到達目標				
	①物理療法の種類を説明できる ②物理療法の適応、禁忌、実施方法について説明できる ③物理療法を実際に使用する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	物理療法のための生理学	13	水治療法
2	物理療法基礎	14	電気刺激療法（1）
3	温熱療法（1）	15	電気刺激療法（2）
4	温熱療法（2）	16	電気刺激療法（3）
5	温熱療法（3）	17	電気刺激療法（4）
6	光線療法	18	牽引療法
7	寒冷療法	19	マッサージ療法
8	超音波療法	20	リスク管理
9	演習(1)	21	演習（1）
10	演習(2)	22	演習（2）
11	演習(3)	23	演習（3）
12	演習(4)	24	

講義方法

講義、実技

成績評価方法

筆記試験70％、課題30％

参考書（教科書）

１５レクチャーシリーズ　物理療法学・実習

予習復習のアドバイス

それぞれの単元のはじめのページに予習・復習のポイントが示されています。

そちらを参考にしてください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	義肢学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤　房郎、植松　茂也	実務経験	佐藤：医療機関（病院）で〇年理学療法士として勤務　植松：△△で〇年義肢装具士として勤務		
講義目標	**一般目標**				
	理学療法における義肢の必要性を理解する。義肢の構造を理解しながら対象疾患や障害に適した義肢を選択出来る様になる。必要な身体機能について再確認できる。				
	到達目標				
	①義肢の構造を理解する。②理学療法との関わりを疾患との関連を考慮しながら体得する。③実習を通し、他職種との関わりを確認できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	**義肢総論** **植松**	9	**義肢学　実習体験** 植松
2	**切断総論** **植松**	10	**切断患者のリハビリテーション総論①** 佐藤房郎
3	**切断各論** **植松**	11	**切断患者のリハビリテーション総論②** 佐藤房郎
4	**義足（1）　　植松** 足継手、下腿義足ソケット	12	**義足歩行とADL練習①** 佐藤房郎
5	**義足（2）　　植松** 股・膝・サイム・足部義足	13	**義足歩行とADL練習②** 佐藤房郎
6	**義足（3）　植松** 膝継手・大腿義足ソケット	14	**異常歩行と対処法①** 佐藤房郎
7	**義手** 植松	15	**異常歩行と対処法②** 佐藤房郎
8	**義肢学　実習体験** 植松	16	

講義方法

講義および実技

成績評価方法

筆記試験（植松60点、佐藤40点）

教科書

細田多穂：**シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第3版**．南江堂．2018

予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	装具学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	片田　昌子	実務経験	理学療法士		
講義目標	**一般目標**				
	理学療法における装具の必要性を理解する。装具の構造を理解しながら対象疾患や障害に適した装具を選択できるようになる。必要な身体機能について再確認できる。				
	到達目標				
	①装具の意義と機能を理解する　②装具の適応となる疾患や障害を学び、構造と機能を理解する　③疾患や障害に対する装具の適応と適合判定能力を養う				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	装具学　総論	9	装具と疾患　脳血管疾患関連② 意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
2	下肢装具① 基本的な構造と種類、チェックアウト	10	装具と疾患　運動器疾患関連① 意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
3	下肢装具② 基本的な構造と種類、チェックアウト	11	装具と疾患　運動器疾患関連② 意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
4	靴型装具 基本的な構造と種類	12	装具と疾患　神経筋疾患関連 意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
5	体幹装具 基本的な構造と種類	13	装具と疾患　脊髄損傷関連 意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
6	上肢装具① 基本的な構造と種類	14	装具と疾患　小児疾患関連 意義目的、装具療法、適合判定や処方時期
7	上肢装具① 基本的な構造と種類	15	まとめ
8	装具と疾患　脳血管疾患関連① 意義目的、装具療法、適合判定や処方時期	16	

講義方法

講義および実技

成績評価方法

筆記試験

参考書

シンプル理学療法学シリーズ義肢装具学テキスト　改訂第３版　南江堂

予習復習のアドバイス

教科書をよく読むこと。

授業中、教科書や資料に印をつけた部分は確実に覚えてください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2年
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	日常生活活動技術論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	和地　辰紀	実務経験	和地：理学療法士として一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション5年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	日常生活活動（以下，ＡＤＬ）の概念形成の関係を理解し，ＡＤＬ評価・補装具・基本動作・身辺動作・住環境整備等の知識を習得し，各疾患におけるＡＤＬ練習，指導の考え方を理解する．				
	到達目標				
	1.理学療法の過程とＡＤＬの関連について理解する．2.ＡＤＬ評価を行う目的と評価方法を理解する．3.一般的な動作の介助や指導，基本的な補装具、住環境整備について理解する．4各疾患の.ＡＤＬ練習，指導の原則や対象者の変化に対応したＡＤＬ練習，指導を理解する．				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	日常生活活動の概念	9	疾患・障害におけるADL②　脊髄損傷
2	日常生活活動評価の概要	10	疾患・障害におけるADL③　関節リウマチ
3	代表的な評価指標	11	疾患・障害におけるADL④　変形性関節症
4	基本動作	12	疾患・障害におけるADL⑤　呼吸器疾患
5	移乗動作と移動動作・歩行	13	疾患・障害におけるADL⑥　循環器疾患
6	身辺動作	14	疾患・障害におけるADL⑦　神経筋疾患
7	手段的日常生活活動	15	疾患・障害におけるADL⑧　認知症
8	疾患・障害におけるADL①　片麻痺	16	

講義方法

対面講義形式（状況に応じてオンライン講義）、グループワーク、実技演習

成績評価方法

学期末考査によって成績を評価する

参考書

Crosslink　理学療法学テキスト　日常生活活動学

予習復習のアドバイス

講義内容をしっかりと記録し復習すること

疾患別ADLを理解するために疾患の理解を深めてから講義に臨むこと

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2年
学　科	理学療法科	講義時間	不定		
科目名	骨関節障害理学療法Ⅰ	講義曜日	不定	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一、三浦信明、籠倉暁	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設9年、理学療法士として勤務。三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	骨運動器障害の概要を知り、それらの理学療法を総合的に学習する。運動器障害の理学療法評価について学ぶとともに、理学療法評価に基づいた運動療法を中心とした治療について理解を深める。				
	到達目標				
	運動器障害に対する機能障害の系統的評価手法・運動療法を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動器障害理学治療学総論 小宮山	9	変形性関節症に対する理学療法評価③ 小宮山
2	肩関節周囲疾患に対する理学療法評価① 三浦	10	変形性関節症に対する理学療法① 小宮山
3	肩関節周囲疾患に対する理学療法評価② 三浦	11	変形性関節症に対する理学療法② 小宮山
4	肩関節周囲疾患に対する理学療法評価③ 三浦	12	脊椎疾患に対する理学療法評価① 籠倉
5	肩関節周囲疾患に対する理学療法① 三浦	13	脊椎疾患に対する理学療法評価② 籠倉
6	肩関節周囲疾患に対する理学療法② 三浦	14	脊椎疾患に対する理学療法① 籠倉
7	変形性関節症に対する理学療法評価① 小宮山	15	脊椎疾患に対する理学療法② 籠倉
8	変形性関節症に対する理学療法評価② 小宮山	16	

講義方法

実技を伴う対面授業で行う。

成績評価方法

「筆記試験」100%

教科書・参考書

Crosslink 理学療法学テキスト運動器障害理学療法学　メジカルビュー社　編集 加藤浩

予習復習のアドバイス

各種疾患に関連する解剖学、運動学の復習を行った上で、授業に参加すること。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2年
学　科	理学療法科	講義時間	変則		
科目名	骨関節障害理学療法Ⅱ	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一、三浦信明、籠倉暁	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設10年、理学療法士として勤務。三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	運動器障害に対する理学療法を総合的・系統的に学習する。運動器障害に対する評価に基づいて、運動療法を主体とした治療の理論を学習する。				
	到達目標				
	運動器障害における評価に基づいた治療計画立案の考え方、基本的な運動療法手技、リスク管理について説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	RAに対する理学療法評価① 小宮山	9	軟部組織損傷・障害に対する理学療法② 小宮山
2	RAに対する理学療法② 小宮山	10	スポーツ障害・外傷に対する理学療法評価 小宮山
3	骨折・脱臼に対する理学療法評価① 籠倉	11	スポーツ障害・外傷に対する理学療法評価 小宮山
4	骨折・脱臼に対する理学療法評価② 籠倉	12	スポーツ障害・外傷に対する理学療法評価 小宮山
5	骨折・脱臼に対する理学療法評価③ 籠倉	13	スポーツ障害・外傷に対する理学療法① 小宮山
6	骨折・脱臼に対する理学療法① 籠倉	14	スポーツ障害・外傷に対する理学療法② 小宮山
7	骨折・脱臼に対する理学療法② 籠倉	15	スポーツ障害・外傷に対する理学療法③ 小宮山
8	軟部組織損傷・障害に対する理学療法① 小宮山	16	

講義方法 実技を伴う対面授業で行う。
成績評価方法 「筆記試験」100%
教科書・参考書 Crosslink 理学療法学テキスト運動器障害理学療法学　メジカルビュー社　編集 加藤浩
予習復習のアドバイス 各種疾患に関連する解剖学、運動学の復習を行った上で、授業に参加すること。

講義要項（シラバス）

年　度	2022年度	時　期	前期	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	神経筋障害理学療法Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	日下　優 、伊藤　光	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として10年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	神経筋疾患（重症筋無力症、多発性筋炎、多発性神経炎、ニューロパチー、脊髄損傷）の病態と理学療法との関わりを理解し、病態に応じた診断・評価・治療の流れについて学ぶ。				
	到達目標				
	①神経機能の基礎について復習し、各種症状を呈するメカニズムが理解できる ②対象となる疾患の症状、医学的管理、及び予後を理解し、時期や重症度に応じたリハビリテーション計画を考えることができる ③対象となる疾患の関連知識として介護技術、ADL、福祉用具、社会資源等が理解できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	脊髄損傷	9	脊髄損傷
2	脊髄損傷	10	多発神経炎・ニューロパチー（ギランバレー）
3	脊髄損傷	11	多発神経炎・ニューロパチー（ギランバレー）
4	脊髄損傷	12	多発神経炎・ニューロパチー（ギランバレー）
5	脊髄損傷	13	重症筋無力症・多発性筋炎
6	脊髄損傷	14	重症筋無力症・多発性筋炎
7	脊髄損傷	15	重症筋無力症・多発性筋炎
8	脊髄損傷	16	

講義方法 講義及びグループ学習、実技
成績評価方法 期末試験
参考書 シンプル理学療法学シリーズ神経筋障害理学療法学テキスト（南江堂）
予習復習のアドバイス 各疾患ごとに症状やリハビリテーションを暗記するのではなく、病態生理や発生機序を理解できるよう予習をし授業に臨みましょう。国家試験問題で復習をすると要点の整理がしやすくなります。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	後期	**学　年**	2
学　科	理学療法科	**講義時間**	時間割参照		
科目名	神経筋理学療法学Ⅱ	**講義曜日**	時間割参照	**講義回数**	15
		総時間数	30	**単位数**	2
講師名	片山　望　、　井澤　真一	**実務経験**	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務。		
講義目標	**一般目標** 神経筋疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィー）の病態と理学療法との関わりを理解し、病態に応じた診断・評価・治療の流れについて学ぶ。 **到達目標** ①対象となる疾患の症状、医学的管理、及び予後を理解し、時期や重症度に応じたリハビリテーション計画を考えることができる ②対象となる疾患の関連知識として介護技術、ADL、福祉用具、社会資源等が理解できる				

回数	義内容	回数	義内容
1	パーキンソン病（井澤）	9	筋萎縮性側索硬化症（片山）
2	パーキンソン病（井澤）	10	筋萎縮性側索硬化症（片山）
3	パーキンソン病（井澤）	11	筋ジストロフィー（片山）
4	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症（井澤）	12	筋ジストロフィー（片山）
5	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症（井澤）	13	筋ジストロフィー（片山）
6	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症（井澤）	14	筋ジストロフィー（片山）
7	多発性硬化症（片山）	15	筋ジストロフィー（片山）
8	多発性硬化症（片山）	16	

講義方法

講義及びグループ学習、実技

成績評価方法

取り組み（グループワーク、課題、提出物）、筆記テストを総合的に評価する。
（配点：井澤40点・片山60点）

参考書

シンプル理学療法学シリーズ神経筋障害理学療法学テキスト（南江堂）

予習復習のアドバイス

各疾患ごとに症状やリハビリテーションを暗記するのではなく、病態生理や発生機序を理解した上で、症状を関連させて考えると神経機能の生理学と各疾患の症状を結びつけることで疾患理解を深め、臨床に役立つ知識となる。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	脳血管障害理学療法学Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤　房郎 、左右田　博	実務経験	理学療法士		
講義目標	**一般目標**				
	脳血管障害に対する基本的な手技について、その理論と実際の方法について学ぶ。また、脳血管疾患の代表的な理学療法について学ぶ。				
	到達目標				
	個々の脳血管障害の理学療法について簡単に説明でき、わずかな助言の元に実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	急性期の中枢神経系理学療法（左右田）	9	パーキンソン病の理学療法①　（佐藤）
2	脳卒中の理学療法（左右田）	10	パーキンソン病の理学療法②　（佐藤）
3	運動障害と理学療法（左右田）	11	脊髄小脳変性症の理学療法　（佐藤）
4	感覚障害と理学療法（左右田）	12	バランスと理学療法　（佐藤）
5	疼痛と理学療法（左右田）	13	ADL障害と理学寮違法（佐藤）
6	高次脳機能障害と理学療法①（左右田）	14	生活期の中枢神経理学療法（佐藤）
7	高次脳機能障害と理学療法②（左右田）	15	再発予防（佐藤）
8	回復期の中枢神経理学療法（佐藤）	16	

講義方法

講義、実技

成績評価方法

学期末考査（左右田40点、佐藤60点　計100点）

教科書

中枢神経系理学療法学（医歯薬出版株式会社）

予習復習のアドバイス

わからないことは，まずは教科書を調べ解決する習慣をつけましょう．

それでもわからない場合に教員に質問するようにしてみましょう．

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	内部障害理学療法Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	左右田　博	実務経験	医療機関に15年、理学療法士として勤務。		
講義目標	**一般目標**				
	呼吸の解剖・生理学を復習し、病態に応じた診断・評価・治療の流れについて学ぶ。				
	到達目標				
	呼吸理学療法の評価と治療について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	呼吸器系の解剖	9	慢性閉塞性疾患に対する理学療法
2	呼吸の生理	10	その他の呼吸器疾患
3	呼吸不全の病態、理学療法の対象となる代表的な疾患	11	周術期
4	医学的検査、医師による治療	12	周術期に対する理学療法評価
5	理学療法評価Ⅰ	13	酸素療法、人工呼吸器に関して
6	理学療法評価Ⅱ	14	聴診、打診
7	呼吸器障害に対する理学療法、運動療法	15	触診、呼吸介助
8	慢性閉塞性疾患	16	

講義方法

スライド、実技

成績評価方法

・課題レポート点（提出1点×15回＝15点）＋出席点（無欠席1点×15回＝15点）、期末試験（70点満点）で評価する

教科書

Crosslinl 理学療法学テキスト　内部障害理学療法学

予習復習のアドバイス

疑問に思ったところは、積極的に質問してください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	内部障害理学療法Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	三浦秀幸	実務経験	理学療法士		
講義目標	**一般目標**				
	心大血管疾患リハビリテーションの基本知識を身につける。				
	到達目標				
	心臓を中心とした循環概念、代謝を中心とした運動生理を興味を持って理解し、ヒトの動く機能を高めるプロになるという意識を高める。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	心大血管疾患リハビリテーションの概念	9	循環器疾患と理学療法学的評価①
2	脈管系の確認	10	循環器疾患と理学療法学的評価②
3	血液データの見方	11	循環器疾患と理学療法学的評価③
4	薬物療法	12	循環器疾患と理学療法学的治療①
5	心電図①	13	循環器疾患と理学療法学的治療②
6	心電図②	14	循環器疾患と理学療法学的治療③
7	循環器疾患の病態①	15	まとめ
8	循環器疾患の病態②	16	

講義方法

対面講義で行います。

成績評価方法

学期末試験

参考書

理学療法学テキスト　内部障害理学療法学　（メジカルビュー社）

予習復習のアドバイス

分からないことは質問してください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	内部障害理学療法学Ⅲ	講義曜日	石島：金曜日 井澤：不定	講義回数	１５回
		総時間数	30	単位数	2
講師名	石島孝樹　/　井澤真一	実務経験	石島：主に急性期病院で16年の臨床経験がある。 井澤：介護老人保健施設にて5年の臨床経験		

講義目標	**一般目標**
	代謝障害（糖尿病・腎不全・末梢循環障害）と高齢期の理学療法における病態と理学療法の概要を知り、それらの理学療法評価及び治療について理解する
	到達目標
	１．代謝障害を理解する上で必要な組織・器官の構造と機能が説明できる ２．代謝障害のメカニズムについて、生理・病理学的側面から説明できる ３．糖尿病、腎不全、末梢循環障害、加齢によって引き起こされる代表的症状について説明できる ４．糖尿病、腎不全、末梢循環障害、高齢期の理学療法評価に必要な検査と治療が説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	代謝障害総論（石島） 代謝障害の定義、各種疾患、理学療法について理解する	9	糖尿病Ⅲ（石島） ガイドラインとエビデンスの理解・科学論文の紹介
2	膵臓・腎臓の構造と機能（石島） 機能解剖について理解する	10	腎臓病Ⅰ（石島） 概論、機能解剖、病態理解、人工透析の理解
3	栄養とエネルギー代謝（石島） 身体活動時の代謝応答	11	腎臓病Ⅱ（石島） 理学療法評価と治療
4	末梢循環障害Ⅰ（石島） 概論、機能解剖、病態理解	12	腎臓病Ⅲ（石島） ガイドラインとエビデンスの理解・科学論文の紹介
5	末梢循環障害Ⅱ（石島） 理学療法評価と治療	13	高齢期理学療法Ⅰ（井澤） サルコペニアと加齢の生理応答,運動機能の変化の理解
6	末梢循環障害Ⅲ（石島） ガイドラインとエビデンスの理解・科学論文の紹介	14	高齢期理学療法Ⅱ（井澤） 理学療法評価と治療
7	糖尿病Ⅰ（石島） 概論、機能解剖、病態理解、検査値の理解	15	高齢期理学療法Ⅲ（井澤） ガイドラインとエビデンスの理解・科学論文の紹介
8	糖尿病Ⅱ（石島） 理学療法評価と治療、運動時の血糖変化の理解	16	

講義方法 座学（授業ごとに教科書をもとに作成した資料を配布します）*プロジェクターを使用
成績評価方法 石島：１.筆記試験80%　２.課題・出席・授業態度20%　、井澤：筆記試験のみ　（石島80点・井澤20点）
参考書 内部障害理学療法学　メジカルビュー社
予習復習のアドバイス 授業毎に確認テストを実施する。学習理解度を確認し、自己学習に役立てること。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動発達障害理学療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	畑中　一枝　五十嵐　守	実務経験	作業療法士（畑中）：小児領域で３４年勤務 理学療法士（五十嵐）：小児領域で勤務		
講義目標	**一般目標**				
	正常運動発達を学び、小児の理学療法、（評価・治療）の考え方を学ぶ。				
	到達目標				
	正常運動発達を踏まえ、小児の障害の特性を理解し、発達を考慮した理学療法（評価・治療）を想起出来る。脳性麻痺の病態像-臨床像を説明できる。脳性麻痺の症状-障害像-全体像を説明できる。脳性麻痺児の運動発達評価結果を説明できる。タイプ別の異常姿勢反射、姿勢-運動発達障害の特徴が説明できる。その他疾患の医学的治療、理学療法を説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動発達の理論 正常運動発達（胎児期・新生児期から歩行獲得まで）	9	痙直型脳性麻痺(四肢麻痺・両麻痺)の理学療法
2	発達・運動発達の評価と正常運動発達 （発達検査、運動発達検査、その他検査）	10	痙直型片麻痺・アテトーゼ型の理学療法
3	正常姿勢反射と運動発達 姿勢反射と運動発達の関係	11	整形外科疾患の理学療法
4	脳性麻痺総論：アテトーゼ型 (評価・治療以外)	12	DMD、知的障害児の理学療法
5	脳性麻痺総論：痙直型 四肢麻痺/両麻痺/片麻痺(評価・治療以外)	13	脳性マヒの理学療法治療1
6	遺伝性疾患 知的障害児、その他発達障害児	14	脳性マヒの理学療法治療2
7	重症心身障害児、中途障害児、呼吸障害 療育体系と療育指導	15	医療的ケア児・重度心身障碍児の理学療法
8	発達障害の理学療法（総論）	16	

講義方法

座学、実技　（1～7回　畑中、8～15回　五十嵐）

成績評価方法

12/12(月）期末試験（試験範囲：１～１２回目まで）　畑中５０点、五十嵐５０点

教科書

小児理学療法テキスト（南江堂）

予習復習のアドバイス

１．事前学習について、予習することで、当日講義内容の理解は一層深まるでしょう。

２．自ら、関連する過去の国家試験問題を探し、解いてみること。わからないことは即解決すること。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2年
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	地域理学療法学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	和地　辰紀	実務経験	和地：理学療法士として一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション5年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	病気や障害を抱えた人々が生活している場所（地域）で起きている生活問題の解決を図ることや治療技術だけではなくその人らしい生活づくりまでを含めた幅広い領域を理解する。				
	到達目標				
	・地域と理学療法の関係を理解する。 ・対象、関連制度、在宅理学療法について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	地域リハビリテーション総論	11	
2	地域理学療法の対象および関連制度	12	
3	介護保険制度下での地域理学療法	13	
4	在宅理学療法①	14	
5	在宅理学療法②	15	
6	在宅理学療法③	16	
7	症例検討・演習課題①	17	
8	症例検討・演習課題②	18	
9		19	
10		20	

講義方法

講義、グループワーク

成績評価方法

学期末に筆記試験（100点）を実施します。　※60点以上合格

教科書

ビジュアルレクチャー　地域理学療法学　第2版（医歯薬出版）

予習復習のアドバイス

グループ内の検討課題には積極的に参加しましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	2年
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	住環境整備・福祉用具活用論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	巴 雅人（7コマ）、伊藤 清市（4コマ）、和地 辰紀（4コマ）	実務経験	理学療法士		
講義目標	**一般目標**				
	講義を通じて、各障害と生活環境の関わりを学ぶ。				
	到達目標				
	・制度の基本理解と各職域との連携を理解する。 ・各疾患の特徴と住宅改修の基礎知識を習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	生活環境の概念と論点 ①障害の受容や差別・偏見 　ノーマライゼーションやバリアフリーの概念	9	地域における生活環境整備（2）
2	生活と福祉の施策をめぐる動向と現状（1） ①障害射政策と運動、その時代の福祉用具 ②環境と障害、理学療法士の関わり	10	地域における生活環境整備（3）
3	生活と福祉の施策をめぐる動向と現状（2） ③社会福祉制度、法的諸制度 ④障害者スポーツ概要	11	地域における生活環境整備（4）
4	居住環境の整備（1）	12	PTが理解すべき建築知識と移動用福祉用具（1）
5	居住環境の整備（2）	13	PTが理解すべき建築知識と移動用福祉用具（2）
6	居住環境の整備（3）	14	演習（1）
7	居住環境の整備（4）	15	演習（2）
8	地域における生活環境整備（1）	16	

講義方法 教科書、資料、パワーポイント等を使った講義やグループワーク
成績評価方法 出席評価（課題・レポート提出）、学期末の筆記試験　※各講師担当それぞれ60点以上合格
教科書 別途、必要に応じて資料を配布します。
予習復習のアドバイス グループワークや課題等の取り組みは事前準備をしっかりと行い積極的に仲間と取り組むこと。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	2
学　科	理学療法科	講義時間	本実習160時間、実習前後評価40時間		
科目名	臨床実習Ⅰ（R6.1.29～2.27）	講義曜日		講義回数	
		総時間数	200	単位数	5
講師名	井澤　真一、和地　辰紀	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務。 和地：理学療法士として一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション4年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	（1）指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目（水準Ⅰ）において、リスク管理、理学療法検査測定項目（情報収集を含む）を実践することができる。 （2）対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。 （3）職場における理学療法士の役割と責任ついて理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる。 （4）地域理学療法の場面での経験を通して、地域包括ケアシステム（特に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	実習前評価20時間（1/23-26）	9	
2	本実習160時間（1/29～2/27）20日間	10	
3	実習後評価20時間（2/29-3/5）	11	
4		12	
5		13	
6		14	
7		15	
8		16	

講義方法

成績評価方法

実習に関する最終評定は、実習前評価、実習指導報告書及びセミナー内容、実習後評価の学習成果から総合的に判断し、養成施設が判定（単位認定）する。

参考書

予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	後期	**学　年**	3
学　科	理学療法科	**講義時間**	時間割参照		
科目名	統計学	**講義曜日**	変則	**講義回数**	8
講師名	岩渕　正則	**総時間数**	15	**単位数**	1
講義目標	**一般目標**				
	統計学の基本的な考え方を理解し、実務に活用できる。				
	到達目標				
	国家試験の問題を解けるようになる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	データの種類と代表値	11	
2	度数分布表	12	
3	確率分布と正規分布	13	
4	相関係数と回帰直線	14	
5	推定について	15	
6	各種検定の種類と特徴（パラメトリック検定）	16	
7	種検定の種類と特徴（ノンパラメトリック検定	17	
8	試験と解説	18	
9		19	
10		20	

講義方法

板書で解説をしていく。

成績評価方法

試験の得点を重視する。

教科書

ていねいな保健統計学　羊土社

予習復習のアドバイス

数学Ⅰ・Aの内容（統計分野）を復習しておく事。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	スポーツ学Ⅱ	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	川口　鉄二	実務経験	川口　鉄二:体育系大学にてスポーツ運動学・コーチング学系の教授として勤務		
講義目標	**一般目標**				
	障害にわたって心身ともに健康に生活していくために必要な要素としてのスポーツの役割について理解する。				
	到達目標				
	障害にわたって心身ともに健康に生活していくために必要な要素としてのスポーツの役割について説明することができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 講義概要と今日のスポーツ問題	11	
2	人間の運動の観察法 客観的観察と主観的観察の違い	12	
3	正しい動き方の基準 運動の鋳型化と要素化問題	13	
4	生涯スポーツの本質 Turnfestに見るスポーツの身体化	14	
5	実技	15	
6	実技	16	
7	実技	17	
8	実技	18	
9		19	
10		20	

講義方法

対面によるプレゼンテーション

成績評価方法

各回のレポート内容、出席状況を含め総合的に判定します

参考書

特になし

予習復習のアドバイス

自分の運動経験例を思い浮かべながら考えてください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	後期	**学　年**	3
学　科	理学療法科	**講義時間**	時間割参照		
科目名	コミュニケーション論Ⅲ	**講義曜日**	時間割参照	**講義回数**	7.5
		総時間数	15	**単位数**	1
講師名	江崎　浩明　佐藤　美加	**実務経験**	江崎：産業・学校・医療領域にて相談業務約15年間。佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	**一般目標**				
	臨床実習Ⅱや就職活動に向け、他職種と有効な関係を築くコミュニケーション能力を養う。				
	到達目標				
	①他職種と有効な関係を築くコミュニケーション能力を身に着ける。 ②理学療法実施に関連するコミュニケーション能力を身に着ける。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	自分自身を知る 交流分析（ｴｺﾞｸﾞﾗﾑ・人生態度・人生脚本）	9	
2	配慮に関するコミュニケーション 高/低ｺﾝﾃｷｽﾄ、I/youﾒｯｾｰｼﾞ、EQ、ｱｻｰｼｮﾝ	10	
3	自分の心身の状態に気づく マインドフルネス	11	
4	対人援助のコミュニケーション ”聴く”スキル演習	12	
5	チームワークとコミュニケーション① チームの一員として仕事を進める	13	
6	チームワークとコミュニケーション② 建設的でさわやかに対話する	14	
7	その人らしさを大切にするコミュニケーション① 視聴覚言語障害を持つ被援助者とのコミュニケーション	15	
8	その人らしさを大切にするコミュニケーション② 認知症の被援助者とのコミュニケーション	16	

講義方法

講義、演習

成績評価方法

江崎50点（試験）、佐藤50点(課題)

教科書：PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド（医学書院）

参考書：ケア・コミュニケーション(ウィネット)

予習復習のアドバイス

教科書を読んで、日常生活で実践することを継続してください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	3
学　科	理学療法科・作業療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	薬理学	講義曜日	月	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	矢野梨恵	実務経験	医療機関（病院・調剤薬局）にて１8年		
講義目標	**一般目標**				
	薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。あわせて、薬物の副作用やその有害事象についても学ぶ。				
	到達目標				
	・薬物の基本事項について理解する。 ・対象疾患に対する薬物療法について理解する。 ・薬物の副作用と有害事象について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	なぜ薬理学を学ぶのか 薬が疾患治療に使えるのはなぜか	9	神経疾患の薬物療法 （神経疾患治療薬・薬と運動機能障害）
2	薬の基礎知識 （薬の歴史・受容体・薬の分類）	10	精神疾患の薬物療法 （精神疾患治療薬・薬物による精神障害）
3	薬の概念と分類 （生体内物質と薬の作用・医療用医薬品）	11	循環器系疾患の薬物療法 （高血圧治療薬・狭心症治療薬・不整脈薬
4	薬の作用に影響する因子 （薬物の標的・作用・副作用・有害反応）	12	疼痛の制御と薬物療法 （侵害受容性疼痛・神経障害性疼痛・鎮痛
5	生体内での薬の働き （薬物血中濃度・ADME）	13	注意すべき頻用される薬物 （代謝性疾患治療薬・催眠薬）
6	薬の作用に影響する因子 （薬の効きやすさ・加齢の影響・相互作用	14	臨床でよく使われる薬の解説 過去問解説
7	薬の使い方 （剤形・投与計画・ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ・薬物依存	15	試験
8	感染・炎症の制御と薬物療法 （感染症治療薬・抗炎症薬）	16	

講義方法 座学の授業となります。教科書と配布プリントを使用して進めますので、配布資料はファイリングして講義に持参してください。
成績評価方法 出席（１０％）試験（９０％）で評定します。
内山靖・藤井浩美・立石雅子／編集　　リハベーシック　薬理学・臨床薬理学
参考書 丸山敬／著　FLASH薬理学　　宮越浩一／編　リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理
予習復習のアドバイス 生理学・解剖学などの基礎科目と、内科学をはじめとする疾患に関する専門知識が基本になるので、国家試験勉強を兼ね復習しておくことを勧めます。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	画像診断学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	星原正則　中村起也　千葉一幸	実務経験	星原：診療放射線技師として一般病院での勤務経験あり		
講義目標	**一般目標**				
	画像検査の種類、原理、方法、適応等について学修する。				
	到達目標				
	医学的情報における画像所見及び画像診断について説明できる （レントゲン・CT・MRI・超音波画像）				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	画像検査の種類、原理、方法、適応等①（星原） 整形外科領域のレントゲン・CT・MRI	11	
2	画像検査の種類、原理、方法、適応等②（星原） 整形外科領域のレントゲン・CT・MRI	12	
3	画像検査の種類、原理、方法、適応等③（星原） 整形外科領域のレントゲン・CT・MRI	13	
4	各論～CVAの画像所見及び診断① 中村	14	
5	各論～CVAの画像所見及び診断② 中村	15	
6	各論～胸部画像 星原	16	
7	各論～心電図① 千葉	17	
8	各論～心電図② 千葉	18	
9		19	
10		20	

講義方法

１～３はオンライン、４～対面で実施

成績評価方法

課題、レポート、出席状況により評価

参考書

特になし

予習復習のアドバイス

疑問点は積極的に質問してください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	通年	**学　年**	3年
学　科	理学療法科	**講義時間**	時間割参照		
科目名	関連職種連携論	**講義曜日**	時間割参照	**講義回数**	8
		総時間数	15	**単位数**	1
講師名	和地　辰紀	**実務経験**	和地：理学療法士として一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション5年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	「チーム医療、チームケア」を実践するための知識や方法を学び、将来、臨床の場で活かせるようにする。				
	到達目標				
	①問題解決能力を身につける ②対人スキル、コミュニケーションスキルについて学ぶ ③広い視野を持ち、自身の意見を他者に伝えることができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	専門職とは	11	
2	医療福祉専門職に求めらるもの	12	
3	情報の共有と評価	13	
4	現代家族の特徴	14	
5	関連職種連携とは	15	
6	問題解決型学習法について	16	
7	関連職種連携の模擬実践①	17	
8	関連職種連携の模擬実践②	18	
9		19	
10		20	

講義方法

状況に応じて講義はオンライン、対面で実施します。検討課題について個々人もしくはグループで解決していく。

成績評価方法

学期末考査、受講態度を総合的に勘案し評価します。

参考書

Crosslink理学療法テキスト　地域理学療法学

予習復習のアドバイス

オンラインでの講義では通信環境等を配慮した上で実施しますので不明な点は伝えてください。

グループ内での検討課題に積極的に参加してください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	変則		
科目名	研究法	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設10年、理学療法士として勤務。		

講義目標	**一般目標**
	研究に必要な用語や知識を理解し、研究思考を身につける
	到達目標
	・研究の必要性・重要性について説明できる ・研究に用いる用語を説明できる ・研究過程を説明できる ・理学療法関連の論文の内容を理解できる ・目的をもって複数の文献をまとめることができる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	EBPTとガイドライン	9	プレゼンテーション1
2	文献レビュー(概要説明)	10	プレゼンテーション2
3	文献レビュー(レジュメ作成)1	11	プレゼンテーション3
4	文献レビュー(レジュメ作成)2	12	プレゼンテーション4
5	文献レビュー(レジュメ作成)3	13	研究の進め方1
6	文献レビュー(レジュメ作成)4	14	研究の進め方2
7	文献レビュー(レジュメ作成)5	15	研究の進め方3
8	文献レビュー(レジュメ作成)6	16	

講義方法 発表準備やプレゼンテーションを行います。
成績評価方法 「レジュメ作成」、「プレゼンテーション」100%
参考書 日本理学療法士協会理学療法ガイドライン
予習復習のアドバイス 発表レジュメ作成において、教員との報告、連絡、相談が必要になります。随時、主体的かつ積 取り組むように心がけてください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法特論Ⅲ	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	日下　優　　籠倉　暁	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として10年勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	基礎科目、臨床医学、理学療法の関係性を理解する。				
	到達目標				
	学生が、基礎科目、臨床医学、理学療法の知識を定着させ、関連付けて説明することができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法と解剖学の関係性	9	理学療法と生理学の関連性
2	理学療法と解剖学の関係性	10	理学療法評価
3	理学療法と解剖学の関係性	11	理学療法評価
4	理学療法と運動学の関連性	12	理学療法評価
5	理学療法と運動学の関連性	13	理学療法と臨床医学の関係性
			病理学、リハ概論、内科学
6	理学療法と運動学の関連性	14	理学療法と臨床医学の関連性
			心理学、精神医学、人間発達学
7	理学療法と生理学の関連性	15	理学療法と臨床医学の関連性
			整形外科学、神経内科学
8	理学療法と生理学の関連性	16	

講義方法

講義、調べ学習、問題演習

成績評価方法

小テスト10点×4回＝40点　本テスト60点

教科書

特になし

予習復習のアドバイス

国試問題過去10年分はしっかり解けるようにしてください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法管理学Ⅱ	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	佐藤　美加、渡邉　好孝、榊　望、川上　真吾	実務経験	佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。渡邉・榊・川上：医療機関で現在まで永年にわたり勤務。		
講義目標	**一般目標**				
	理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本，臨床教育の基本について学ぶ。				
	到達目標				
	理学療法士として働くイメージが明確になり、そのためにどのような自己管理が必要かあげられるようになる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法部門管理 ①　（榊） 職場長の立場から	11	
2	理学療法部門管理 ②　（榊） 職場長の立場から	12	
3	臨床教育の方法と生涯学習制度について（川上） 職場及び士会の卒後教育の紹介	13	
4	理学療法士として働くこと　（渡邉） 理学療法士会長の立場から	14	
5	医療安全トレーニング①　（佐藤） 「判断未実施」	15	
6	医療安全トレーニング②　（佐藤） 「説明不足」	16	
7	医療安全トレーニング③　（佐藤） 「現状評価とフィードバック不足による判断の誤り」	17	
8	医療安全トレーニング④　（佐藤） まとめ	18	
9		19	
10		20	

講義方法

講義

成績評価方法

提出物、出席状況

参考書

なし

予習復習のアドバイス

疑問点があれば担当教員に確認をしてください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学VI	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	日下　優　　籠倉　暁	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として10年勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	理学療法評価の情報を整理し、考察する。				
	到達目標				
	学生が、理学療法評価の情報を整理し、他者に説明することができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	PBL　問題基盤型学習 初期情報	9	
2	PBL　問題基盤型学習 評価項目列挙	10	
3	PBL　問題基盤型学習 統合と解釈	11	
4	PBL　問題基盤型学習 問題点抽出	12	
5	PBL　問題基盤型学習 目標設定	13	
6	PBL　問題基盤型学習 治療プログラム立案	14	
7	個別PBL　問題基盤型学習	15	
8	個別PBL　問題基盤型学習	16	

講義方法

グループワーク、発表、ディスカッション

成績評価方法

期末試験

教科書

特になし

予習復習のアドバイス

疑問点は教科書で調べ、自身でしっかり理解しましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法Ⅲ	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	日下　優　　籠倉　暁	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として10年勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	各疾患の運動療法とリスク管理を理解する。				
	到達目標				
	各疾患の運動療法において、リスク管理を行いながら、効果的に実践できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	骨関節疾患に対する運動療法とリスク管理	9	脳血管疾患に対する運動療法とリスク管理
2	骨関節疾患に対する運動療法とリスク管理	10	脳血管疾患に対する運動療法とリスク管理
3	骨関節疾患に対する運動療法とリスク管理	11	脳血管疾患に対する運動療法とリスク管理
4	骨関節疾患に対する運動療法とリスク管理	12	脳血管疾患に対する運動療法とリスク管理
5	骨関節疾患に対する運動療法とリスク管理	13	脳血管疾患に対する運動療法とリスク管理
6	骨関節疾患に対する運動療法とリスク管理	14	脳血管疾患に対する運動療法とリスク管理
7	骨関節疾患に対する運動療法とリスク管理	15	脳血管疾患に対する運動療法とリスク管理
8	骨関節疾患に対する運動療法とリスク管理	16	

講義方法

講義、実技

成績評価方法

学期末試験

教科書

『ここがポイント！脳卒中の理学療法』『ここがポイント！整形外科疾患の理学療法』金原出版

予習復習のアドバイス

実技練習は自主的に反復練習し、実践できるようにしましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	骨関節障害理学療法学Ⅲ	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	日下　優　　籠倉　暁	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として10年勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	骨関節障害の理学療法ガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、骨関節障害の理学療法について理解を深める。				
	到達目標				
	学生が、骨関節障害に対してガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、理学療法を計画し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	11	
2	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	12	
3	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	13	
4	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	14	
5	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	15	
6	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	16	
7	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	17	
8	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	18	
9		19	
10		20	

講義方法

講義、演習、グループワーク、発表

成績評価方法

期末試験

参考書

理学療法ガイドライン

予習復習のアドバイス

骨関節障害の理学療法について、自分の勉強の課題をみつけ、授業の中で解決しましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	神経筋障害理学療法Ⅲ	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	日下　優　　籠倉　暁	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として10年勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	神経筋障害の理学療法ガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、神経筋障害の理学療法について理解を深める。				
	到達目標				
	学生が、神経筋障害に対してガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、理学療法を計画し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	11	
2	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び	12	
3	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	13	
4	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	14	
5	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	15	
6	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	16	
7	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	17	
8	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	18	
9		19	
10		20	

講義方法

講義、演習、グループワーク、発表

成績評価方法

期末試験

参考書

理学療法ガイドライン

予習復習のアドバイス

神経筋障害の理学療法について、自分の勉強の課題をみつけ、授業の中で解決しましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	脳血管障害理学療法Ⅲ	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	日下　優　　籠倉　暁	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として10年勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	脳血管障害の理学療法ガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、脳血管障害の理学療法について理解を深める。				
	到達目標				
	学生が、脳血管障害に対してガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、理学療法を計画し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	11	
2	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	12	
3	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	13	
4	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	14	
5	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	15	
6	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	16	
7	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	17	
8	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	18	
9		19	
10		20	

講義方法

講義、演習、グループワーク、発表

成績評価方法

期末試験

参考書

理学療法ガイドライン

予習復習のアドバイス

脳血管障害の理学療法について、自分の勉強の課題をみつけ、授業の中で解決しましょう。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	後期	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	内部障害理学療法Ⅳ	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	三浦　秀幸　辻　和子	実務経験	理学療法士		
講義目標	**一般目標**				
	がん、緩和ケア、健康増進、介護予防の理学療法について理解を深める。 喀痰吸引について理解を深める				
	到達目標				
	がん、緩和ケア、健康増進、介護予防の理学療法について理解し、説明ができる。喀痰吸引をモデル人形に実施できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	介護予防（老人福祉法・介護保険法について）	9	がんの理学療法
2	介護予防（転倒予防）	10	がんの理学療法
3	健康増進（１次・２次・３次予防について）	11	喀痰吸引
4	健康増進（予防理学療法）	12	喀痰吸引
5	健康増進（障害者の健康増進と専門職）	13	喀痰吸引
6	がんの理学療法	14	喀痰吸引
7	がんの理学療法	15	喀痰吸引
8	がんの理学療法	16	

講義方法

スライドによる講義、実技

成績評価方法

学期末考査、実技試験

教科書

クロスリンク理学療法テキスト　内部障害理学療法学　メジカルビュー社

予習復習のアドバイス

疑問点があれば教員に確認するようにしてください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	通年	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	各種理学療法	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	小宮山与一、佐藤美加、久保田凌、大友篤、三浦恵	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設9年、理学療法士として勤務。佐藤：医療機関(一般病院）5年勤務		
講義目標	**一般目標**				
	スポーツ活動支援、国際支援、その他各種理学療法について学ぶ。				
	到達目標				
	スポーツ活動支援、国際支援、その他各種理学療法について理解する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	慢性疼痛の理学療法（1） 大友	11	
2	慢性疼痛の理学療法（２） 大友	12	
3	スポーツ活動支援としての理学療法（１） 小宮山	13	
4	スポーツ活動支援としての理学療法（2） 佐藤	14	
5	ウィメンズヘルスとしての理学療法（１） 三浦	15	
6	ウィメンズヘルスとしての理学療法（2） 三浦	16	
7	国際支援としての理学療法（１） 久保田	17	
8	国際支援としての理学療法（２） 久保田	18	
9		19	
10		20	

講義方法 スライドによる講義、実技
成績評価方法 出席、授業態度を含め総合的に判断する
参考書 特になし
予習復習のアドバイス わからないことは積極的に質問してください。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	**時　期**	通年	**学　年**	3
学　科	理学療法科	**講義時間**	９０分		
科目名	地域理学療法学Ⅱ	**講義曜日**	水	**講義回数**	１５回
		総時間数	30	**単位数**	2
講師名	石島孝樹、望月謙一、工藤尚哉	**実務経験**	主に急性期病院で16年の臨床経験がある。		
講義目標	**一般目標**				
	近年、産業衛生分野において作業内容に起因する障害予防の重要性が提唱されている。障害予防の見地から、理学療法士に期待される社会背景を把握し、適切な評価及び介入方法を理解する。				
	到達目標				
	１．予防理学療法の概要が説明できる。 ２．高齢者の疾患特性が説明できる。 ３．人間工学的評価・思考が説明できる。 ４．労働環境に起因する障害の対応方法が説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	地域理学療法の実際① 望月	9	壮年期における予防理学療法① 壮年期の特性、生活習慣病
2	地域理学療法の実際② 望月	10	壮年期における予防理学療法② 脳血管障害・心疾患・悪性新生物の予防
3	災害時のリハビリテーション① 工藤	11	学童期・思春期における予防理学療法 発達における変化、肢体不自由児
4	災害時のリハビリテーション② 工藤	12	人間工学の概要と用い方 人間工学の概要、行動変容理論
5	予防理学療法の概論 理学療法と予防	13	産業理学療法の実際① 労働環境における筋骨格系障害の予防
6	産業理学療法の概論 労働における予防理学療法	14	産業理学療法の実際② 頸肩腕症候群の予防、転倒予防
7	高齢期における予防理学療法① 高齢者の特性、転倒予防の意義と目的	15	産業理学療法の実際③ 労働環境におけるメンタルヘルス問題
8	高齢期における予防理学療法② 認知症・廃用症候群の予防	16	

講義方法 座学（授業ごとに教科書をもとに作成した資料を配布します）*プロジェクターを使用
成績評価方法 １.筆記試験80%　２.課題・出席・授業態度20%
参考書 予防と産業の理学療法　南江堂
予習復習のアドバイス 授業毎に確認テストを実施する。学習理解度を確認し、自己学習に役立てること。

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期	前期	学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	本実習280時間、実習前後評価40時間		
科目名	臨床実習Ⅱ（R5.5.29～7/15）	講義曜日		講義回数	
		総時間数	320	単位数	8
講師名	籠倉　暁、日下　優、和地　辰紀	実務経験	籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務 日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として勤務 和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務		
講義目標	**一般目標** （1）対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。 （2）職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる。 （3）理学療法プロセス（治療プログラム立案まで）を理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明することができる。 （4）指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目（水準Ⅰ）において、リスク管理、理学療法評価を実践することができる。 （５）地域理学療法の場面での経験を通して、地域包括ケアシステム（特に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解することができる。（対象施設に限る）				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	実習前評価20時間（5/23～26）	9	
2	本実習280時間（5/29～7/15）	10	
3	実習後評価20時間（7/18～21）	11	
4		12	

講義方法

成績評価方法

実習に関する最終評定は、実習前後の評価、実習指導報告書及びセミナー内容などから総合的に判断し、養成施設が判定（単位認定）する。

教科書

予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年　度	2023年度	時　期		学　年	3
学　科	理学療法科	講義時間	本実習280時間、実習前後評価40時間		
科目名	臨床実習Ⅲ（R5.8.24～10.14）	講義曜日		講義回数	
		総時間数	320	単位数	8
講師名	籠倉　暁、日下　優、和地　辰紀	実務経験	籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務 日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として勤務 和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務		
講義目標	**一般目標** （1）対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。 （2）職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる。 （3）理学療法プロセスを理解するとともに、臨床内容の意義を理解して説明することができる。 （4）指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目（水準Ⅰ）において、リスク管理、理学療法評価、理学療法治療技術を実践することができる。 （５）地域理学療法の場面での経験を通して、地域包括ケアシステム（特に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解することができる。（対象施設に限る）				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	実習前評価20時間（8/22.23.24）	9	
2	本実習280時間（8/24～10/14）	10	
3	実習後評価20時間（10/16~20）	11	
4		12	

講義方法
成績評価方法 実習に関する最終評定は、実習前後の評価、実習指導報告書及びセミナー内容などから総合的に判断し、養成施設が判定（単位認定）する。
教科書
予習復習のアドバイス